

全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画（案）



COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th



2023（令和5）年8月29日

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会

1 基本的事項	2
2 協働推進	18
3 観客誘致・広報宣伝	26
4 協賛	31
5 会場	34
6 出展展示	57
7 植物調達・管理	59
8 行催事	61
9 飲食・物販	69
10 会場運営・管理	71
11 交通輸送	74
参考	76



(1) みどりのまちづくりに向けて

緑には、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成などの主要な機能や効果がある他、自然環境教育、中心市街地活性化、観光、産業振興、健康福祉、子育て・情報交換等の場としての多様なポテンシャルがあります。

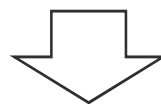
多発する自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響など社会状況が大きく変化する中で、緑とオープンスペースにおいては、従来のコミュニティ活動の場やグリーンインフラ、人々のストレス緩和や運動不足の解消など健康的に過ごせる場としてだけでなく、テレワークのスペースやフィットネス等での利用、キッチンカーの配置による賑わいの創出など、利用形態の多様化や柔軟な活用に対するニーズが高まっています。

こうしたことから、緑を取り巻く社会状況の変化や市民ニーズの多様化に柔軟に対応しながら、緑の機能を十分に発揮させるとともに、その多様な効果を実感できるようにする必要があります。

本計画においては、生物多様性がもたらす水や空気の浄化、食料や資源の供給、暑熱化の緩和、人々の心を豊かにして安心感をもたらすといった、多様な機能と効果を含めて「みどり」として捉えています。

みどりが持つ多様なポテンシャルを、共有の価値として認識するとともに、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、みどりの多様な効果が実感でき、人々が暮らしやすく住み続けたいまちとするため、市民や企業、行政などの多様な主体が将来像を共有しながら、みどりのまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

みどりのまちづくりに向けては、一人ひとりが持続可能なまちづくりなどのSDGsの趣旨を十分に理解しつつ、目指すべき将来像を描きながら取組を進めるとともに、市民や企業、団体、行政など多様な主体との連携を図りながら、経済・社会・環境の三側面の調和や統合的な向上を目指した取組を展開していきます。



令和6（2024）年に迎える川崎市市制100周年を契機に、その**象徴的事業として**
「全国都市緑化かわさきフェア」を開催し、“川崎らしいみどり”を全国に向けて発信していきます。

みどりの機能と効果

「みどり」の考え方

かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす「基盤サービス」（光合成、栄養循環、水や空気の浄化）・「供給サービス」（食料や資源の供給）・「調整サービス」（暑熱化の緩和や災害軽減）・「文化的サービス」（精神充足、レクリエーション）の4つの「生態系サービス」も含めた多様な機能と効果を「みどり」として捉えるものとします。

なお、漢字の“緑”は川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例第2条第1項に基づき、樹木等の植物、樹林地、水辺地、農地等の自然環境を有する土地及び空間並びにそこに生息する動植物の育成基盤である土、水等の自然の要素とします。

みどりは、環境を良くする。



緑化の量を増やすだけでなく、バイオフィリックデザイン、レインガーデンやエディブルガーデンなどの工夫により、都市空間の環境性能が向上する

みどりは、人をつなげる媒介になる。



花を育てることや野菜を収穫することなど、みどりを介して人と人がつながるためのきっかけが生まれる

みどりは、新しい風景をつくる。



街全体が彩られる、人々が花を持って歩いている、緑豊かな公園の中で活動するなど、工夫次第で新しい風景やライフスタイルが生まれる

※バイオフィリックデザイン

「人間には“自然とつながりたい”という本能的な欲求がある」という概念を反映した空間デザインの手法

※レインガーデン

降雨時に雨水を一時的に貯留する機能を持った浸透型の植栽

※エディブルガーデン

「食べられる庭」 野菜だけではなく果物やハーブ等を植栽している庭

1 基本的事項

みどりに関する取組の展開イメージ

右に例示する取組を川崎市全体に波及させることを目指しながら、地域の特性に応じた具体的な取組等を検討します。



1 基本的事項

(2) 目指すべき将来像

ア 基本的な考え方

昨今の社会状況の変化等を踏まえ、かわさきフェアを契機として、**みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、ウェルビーイング※を実現し、住み続けたいと思いつけるようなまち**をつくるため、目指すべき将来像を設定します。

その**将来像の実現を目指し、かわさきフェア開催以降にもつながら様々な取組を、かわさきフェア開催前から展開**していきます。

市内の身近なみどりとオープンスペースにおける日常の活動や取組の充実を図り、市内全域でみどりのまちづくりを進めていきます。

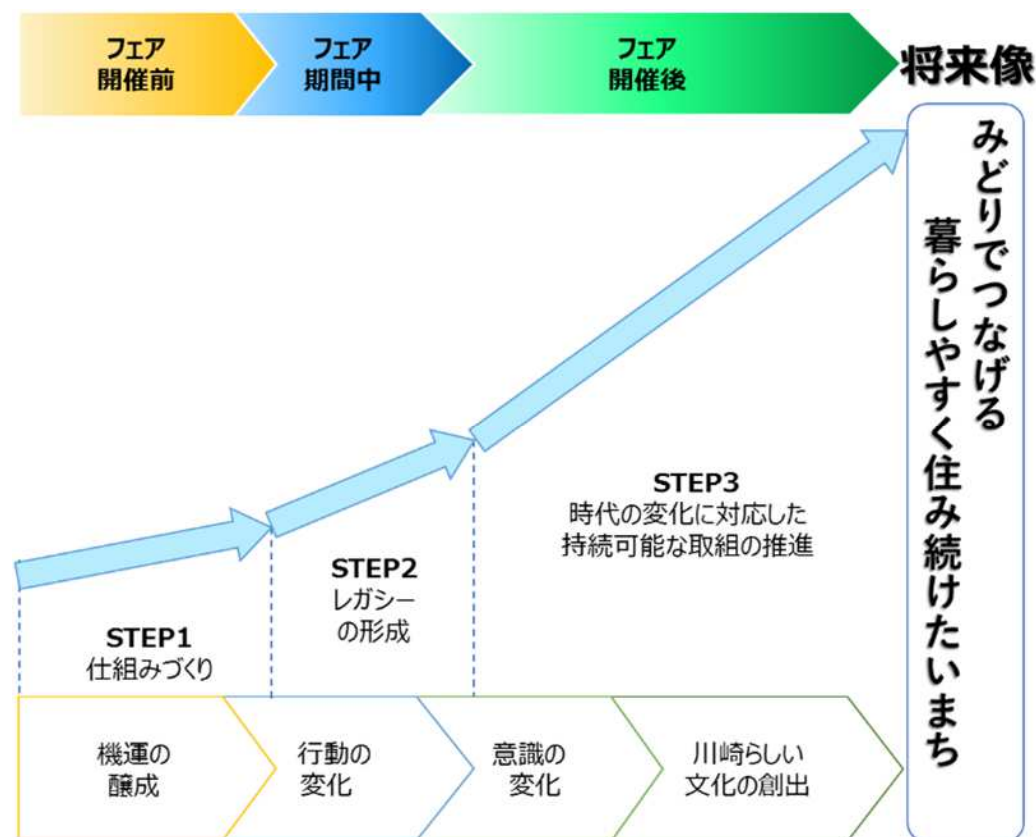
※ウェルビーイング

現代的ソーシャルサービス(社会福祉事業)の達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。昭和21(1946)年の世界保健機関(WHO)憲章草案において、「健康」を定義する記述の中で「良好な状態(well-being)」として用いられた。最低限度の生活保障のサービスだけでなく、人間的に豊かな生活の実現を支援し、人権を保障するための多様なソーシャルサービスで達成される。(出典:「知恵蔵」(株)朝日新聞出版発行)

将来像

みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまち

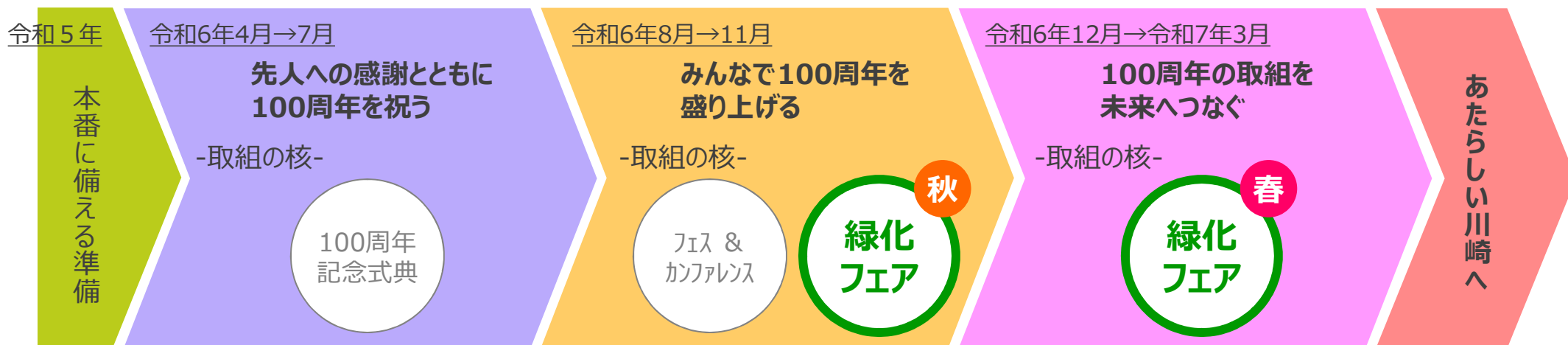
＜目指すべき将来像の実現に向けて＞



1 基本的事項

イ 展開イメージ

【市制100周年を節目に「あたらしい川崎」を生み出していくため、緑化フェアのレガシーによるみどりのまちづくりを展開】



- 100周年記念事業の象徴的事業として、令和6年秋・令和7年春に開催
- フェアを契機に、レガシーとして広がっていくことを目指して各種取組を展開

5つの
レガシー

ライフスタイルの変化
(行動変容)

まちの設え
(ハード整備)

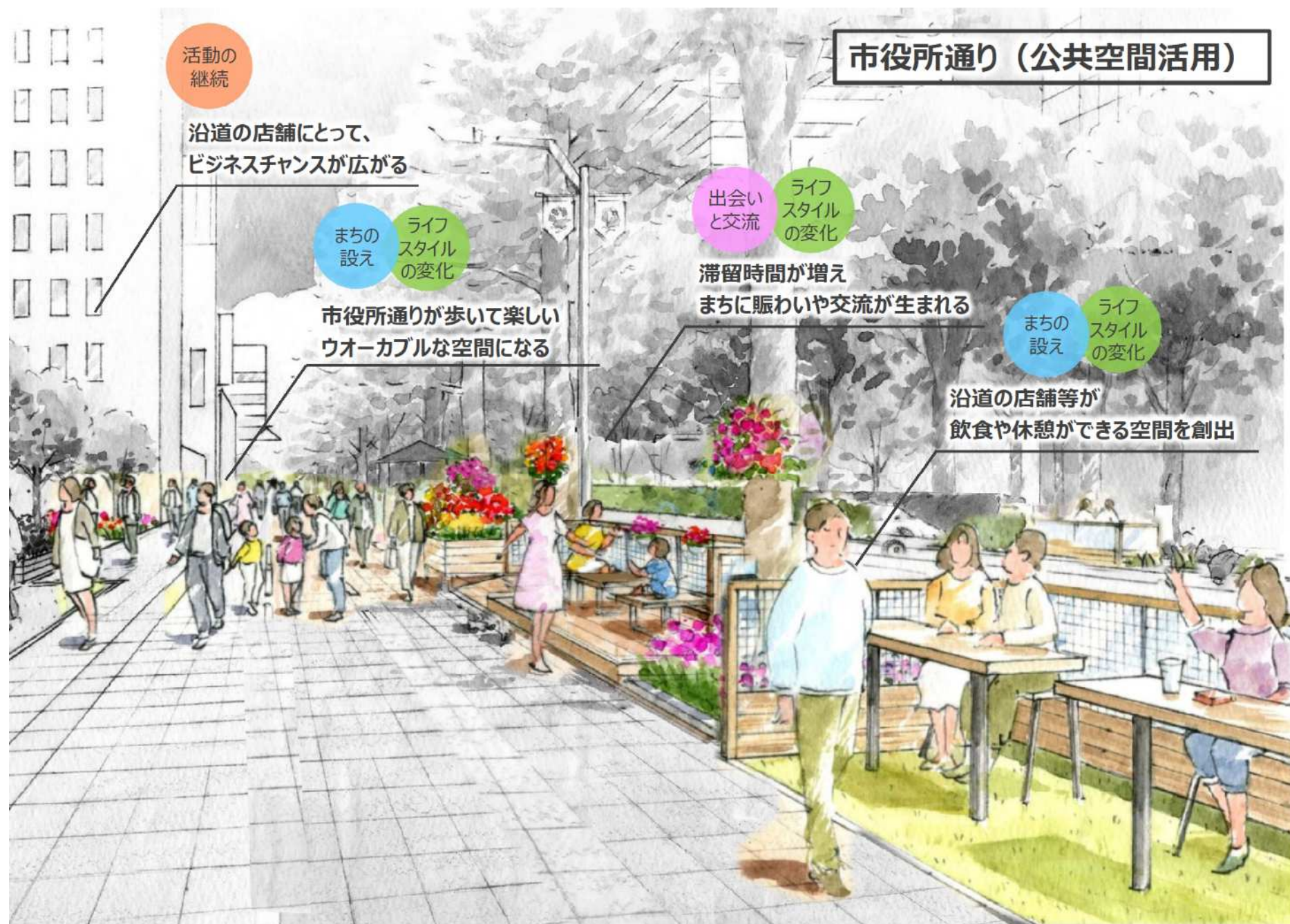
出会いと交流

人の記憶

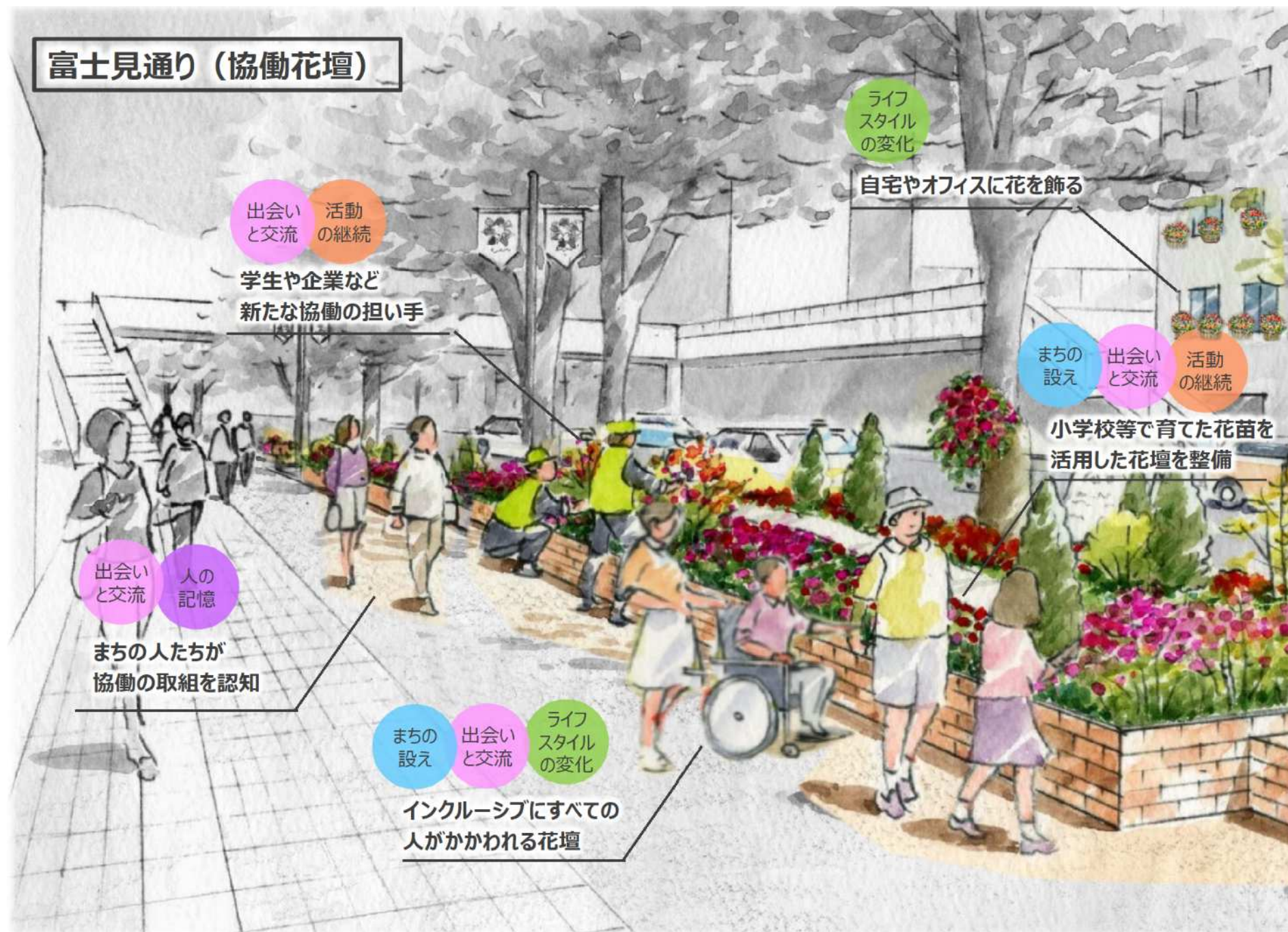
活動の継続



1 基本的事項

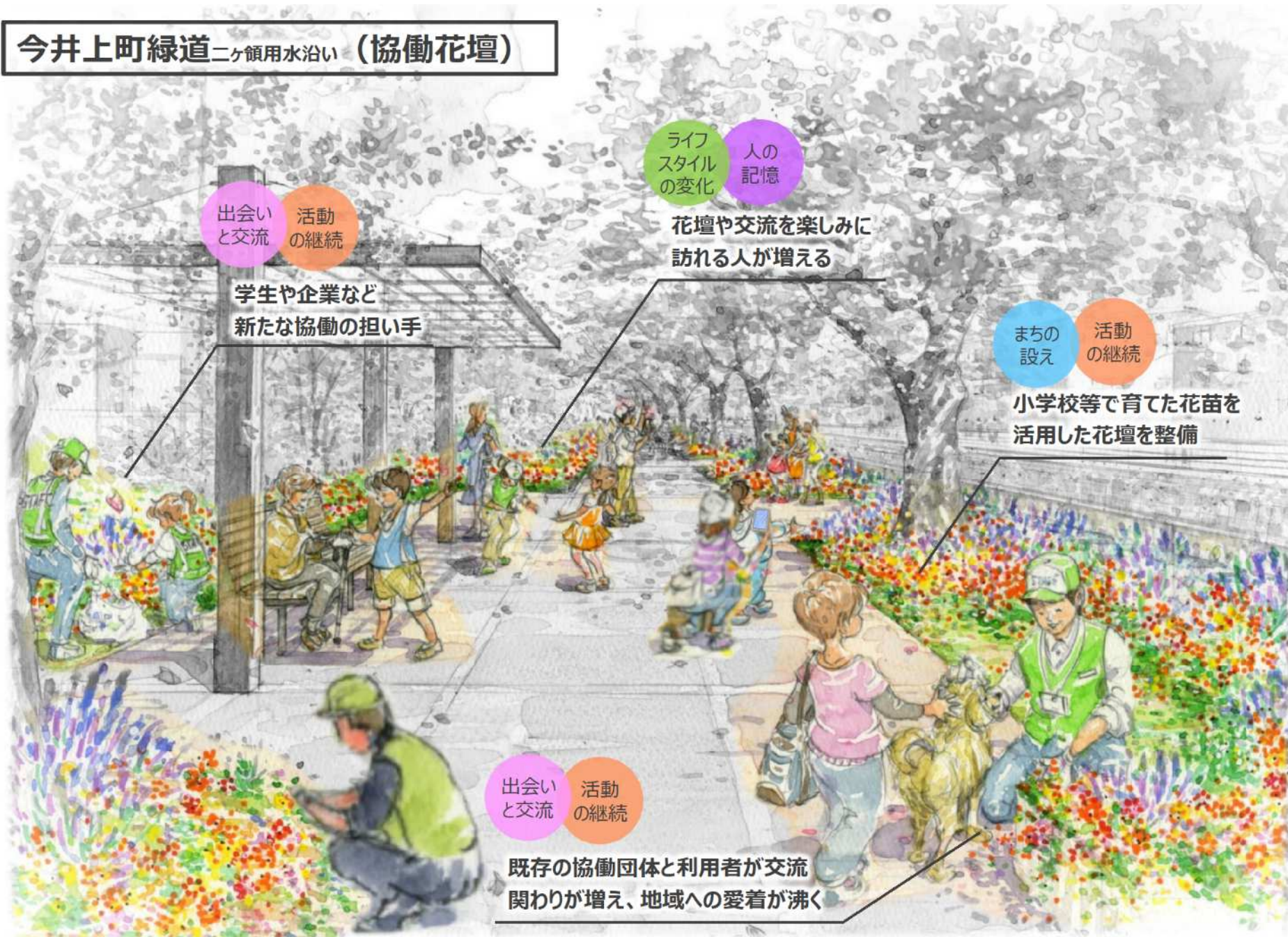


1 基本的事項



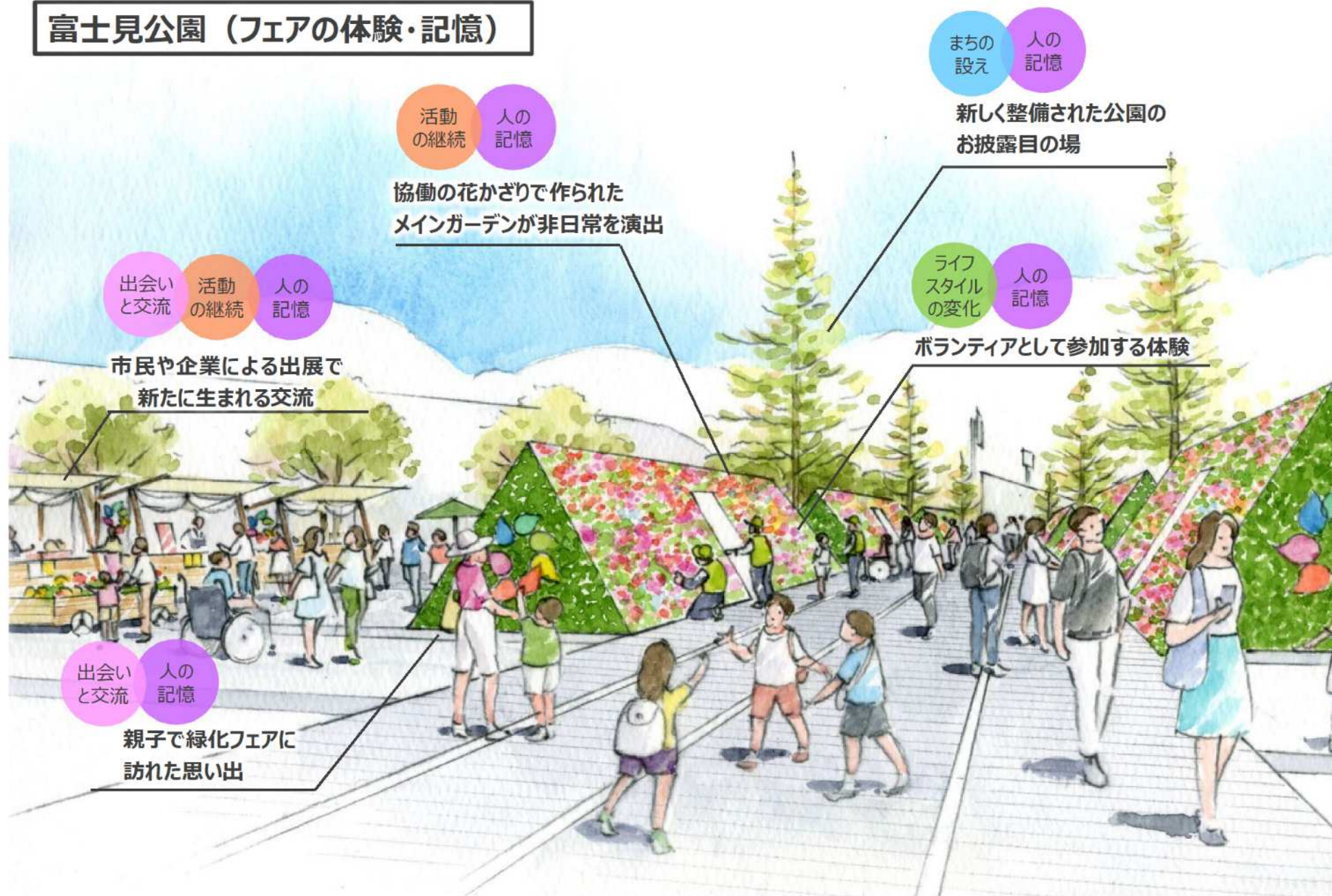
1 基本的事項

今井上町緑道二ヶ領用水沿い（協働花壇）

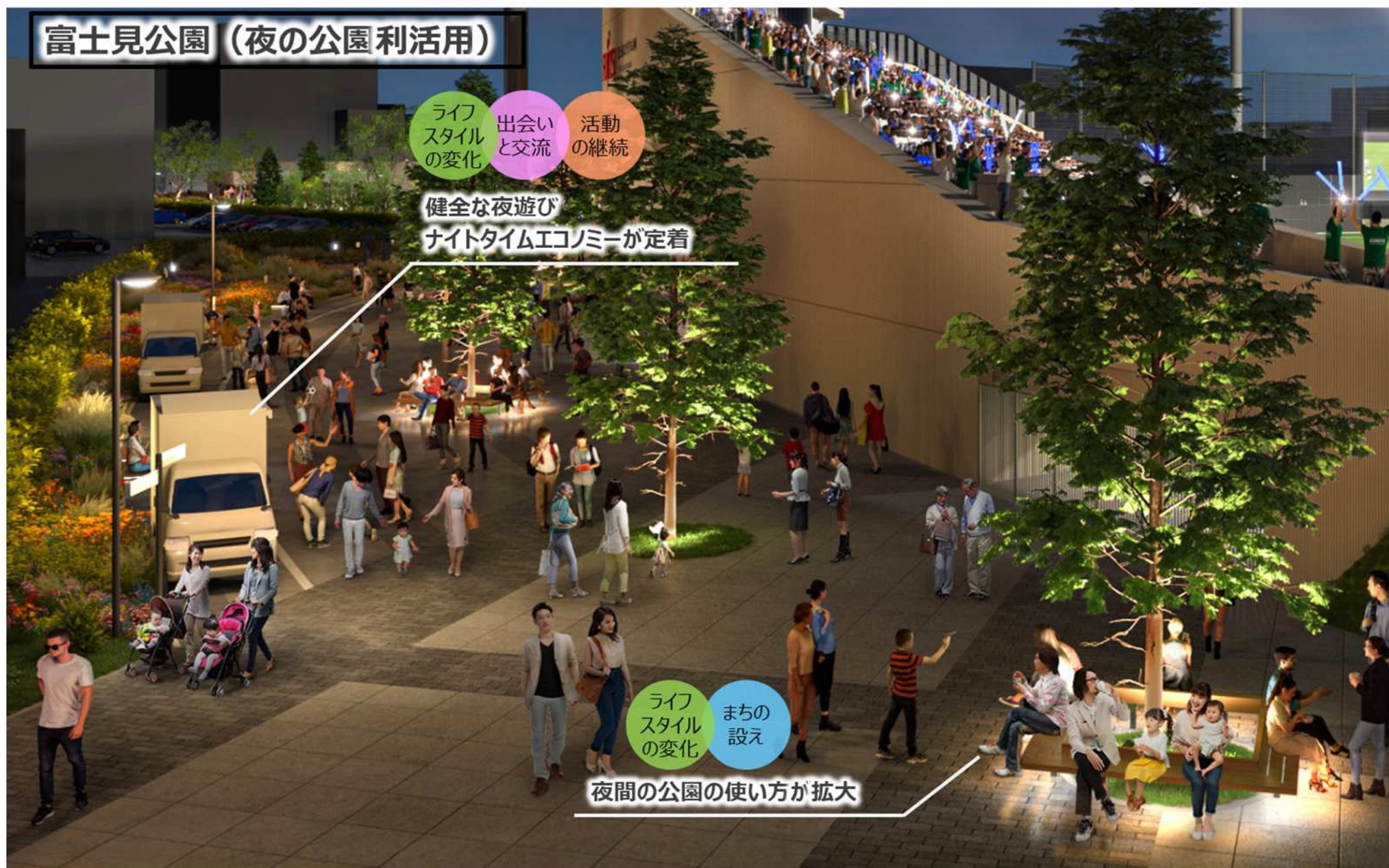


1 基本的事項

富士見公園（フェアの体験・記憶）







1 基本的事項

オフィスや商業施設（生活に取り入れられたみどり）



商業施設やオフィスに
取り入れられたみどり

ライフ
スタイル
の変化

まちの
設え

活動
の継続



日常の身近な場所に
取り入れられたみどり

ライフ
スタイル
の変化

活動
の継続



自宅（生活に取り入れられたみどり）

1 基本的事項

(3) かわさきフェア開催の意義と基本理念等

川崎市は都心部に隣接し、豊富な水資源を背景に、臨海部を中心に工業が発展するとともに、徐々に北部に向かって都市が開発され、利便性の高い都市が生まれてきました。

また、都市の発展の過程において、多くの人々の多様な価値観を上手に取り入れて、音楽、スポーツ、ストリートカルチャーなど、多彩な魅力を有する活力ある都市として、今なお成長を続けています。

一方、都市化の進展に伴い多くの樹林地が失われましたが、行政、市民、企業等の多様な主体の連携・協働により、緑の保全及び育成、創出の取組が進められ、現在は、多摩丘陵や多摩川などの豊富な緑と水を背景に地域に則した多様な自然環境が、川崎市の魅力のひとつとなっています。

環境先進都市として持続的な発展を目指し、積極的にSDGsの達成や脱炭素社会の実現に寄与する取組を進めている中で、川崎の持つ歴史、資源、強み等を活かし、改めてみどりについて市民の皆さまと一緒に考え行動することで、川崎の新たなみどりの文化を醸成し、誰もが住み続けたいまちへとつなげていく大きなチャンスであると考え、令和6（2024）年に迎える川崎市市制100周年の象徴的事業として「**全国都市緑化かわさきフェア**」を開催し、“**川崎らしいみどり**”を全国に向けて発信していきます。



<かわさきフェア開催の意義>

- 1 市民が暮らしの中で、積極的にみどりを取り入れるためのきっかけをつくること
- 2 みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること
- 3 市民の行動が新しい川崎のみどりの文化を育み、誰もが住み続けたいまちにつなげていくこと

かわさきフェア開催の意義を踏まえ、次の100年に向けて、各分野の取組と連携して、多様な主体がつながり、行動するきっかけとする市民総参加型のフェアとなるよう、基本理念、コンセプト、基本方針を次のとおり設定し、取組を展開していきます。

<基本理念>

- I. かわさきフェアは、「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。
- II. 川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。
- III. かわさきフェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。

<コンセプト> Green For All！でみどりのムーブメントを起こします

<基本方針>

ア 川崎の多様なみどりの“力”を感じるフェア

- ・ 生物多様性や都市が抱える様々な課題の解決につながる、グリーンインフラの持つ多様な機能や効果の発信
- ・ 身近なみどりやオープンスペースを活用して、市民一人ひとりがいきいきと居心地よく活動できる空間の創出

イ 先端技術で新たな都市緑化の“形”をつくるフェア

- ・ フェアを通じて川崎の持つ最先端の技術、アイデアによる新しい都市緑化の実現
- ・ 市民一人ひとりのライフスタイルに応じた新しい公園の使い方の提案

ウ 多様なみどりでつなげる“行動”を生み出すフェア

- ・ 市民、企業等が気軽に集い、新たな出会いやつながりを生みだす場づくり
- ・ 多様な主体がつながり、みどりに関わる様々な取組を継続・発展しながら、川崎のみどりの新たな価値を生み出していく仕組みづくり

エ 環境・社会・経済的価値を同時に実現できる“社会”を示すフェア

- ・ これまで培ってきた強みを活かして、SDGsの達成や脱炭素社会の実現に向けた、川崎のみどりが持つ多様なポテンシャルの発信

オ 川崎らしい多様性あふれる“文化”を育むフェア

- ・ 川崎の歴史とともに、地域への愛着を持った市民が暮らしの中でみどりと関わり、多様な文化を育む機会を創出

1 基本的事項

(4) かわさきフェアの開催概要

ア 名称・愛称

<名称> 第41回全国都市緑化かわさきフェア
<愛称> 「Green For All KAWASAKI 2024」

イ 主催者等

提 唱 : 国土交通省
主催者 : 川崎市、公益財団法人都市緑化機構
実施主体 : 川崎市市制100周年記念事業・全国都市
緑化かわさきフェア実行委員会

ウ 開催期間

令和6年10月19日(土)～11月17日(日) (30日間)
令和7年 3月22日(土)～ 4月13日(日) (23日間)

エ 会場

コア会場
: 富士見公園、等々力緑地、生田緑地
コア会場周辺エリア及びまちなかみどりスポット
: 公園緑地、駅前広場、道路、河川、庁舎、商業施設、
商店街など

オ 入場方式

基本的に入場料は無料
既存の有料施設を活用する場合、現行の課金体系を
参考とします。

カ 想定来場者数・概算事業費

想定来場者数 1 6 0 万人
概算事業費 概ね 1 9 億円

キ 統一主題 (テーマ)

「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」

ク シンボルマーク



みどりをツールに、人と人、人と暮らしが緩やかに
つながっていく様子を、区の数である7枚の
葉を重ね、市民の活動（アクション）がさらに
広がっていくイメージを、多彩な色でロゴ全体を
花に見立てて表現しています。

全国都市緑化フェアとは

- 全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いある都市づくりに寄与するものです。
- 昭和58(1983)年から毎年、全国各地で巡回して開催されている花と緑の祭典です。
- 都市緑化をテーマとした、安定した集客が期待できる国内最大級のイベントで、開催都市はもとより、全国各地から花や緑のまちづくりに関心のある多くの方が来訪します。
- 緑化フェアの中心行事である全国都市緑化祭では、皇室からの「おことば」や子どもたちによる「緑化宣言」、地元の緑化活動関係者等への「みどりの社会貢献賞」の授与、皇室による「記念植樹」等が行われ、都市緑化の重要性を強く訴えかけるとともに、緑や花にあふれるまちづくりの推進に寄与します。

【全国都市緑化フェアの統一基本理念】

『緑ゆたかなまちづくり』 窓辺に花を・くらしに緑を・あしたの緑をいまつくろう。



第36回 信州フェア
全国都市緑化祭（皇室による記念植樹）



第38回 くもとフェア
街なかエリア



第38回 くもとフェア
自治体出展花壇(川崎市)

2 協働推進

(1) 基本的な考え方

- 川崎市においては、緑の活動団体をはじめ、民間企業や教育機関、農業関係者等との協働が進んでおり、貴重な財産であるこれまでの市民協働の取組を大切にしながら、地域の団体と、未来のまちづくりを担う子どもたちや若者が出会い、新たなつながりを生み出していきます。
- 企業、地域の団体等を巻き込み、フェア開催以降も継続できる新たな協働、共創による仕組みの構築につなげていきます。
- 川崎市民154万人にかわさきフェアを知って、関わってもらうことを目指していきます。

<関わり方の例>

例1：花壇づくり等のボランティア

身近な公園の花壇の植栽（まちの彩り・賑わいづくり）

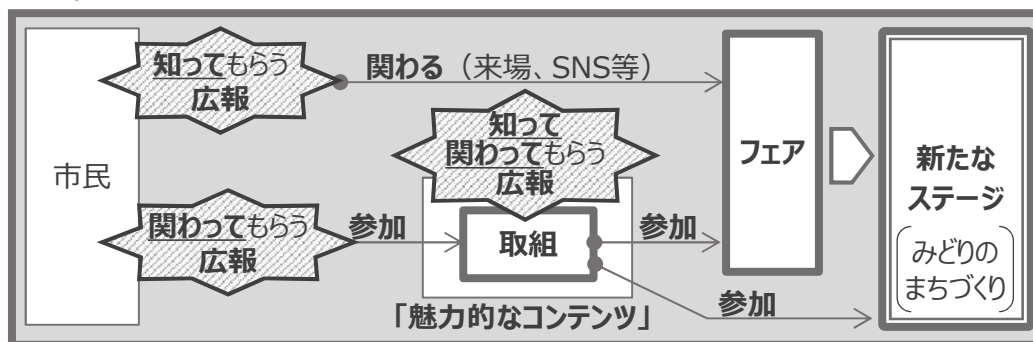
例2：コア会場への来場、各種体験イベントへの参加

例3：自宅のみどりの活動をSNSに投稿 等

(2) 展開イメージ

- より多くの人に知って、関わってもらうため、既存イベントや取組等を活用するとともに、魅力的なコンテンツや会場における体験・体感を通じて、フェア開催前から意識醸成を図っていきます。
- また、魅力的なコンテンツ等の周知と広報を一体的に行うことで、取組を知り、関わるきっかけとなるよう積極的に情報発信していきます。

【広報と取組の一体的な仕掛け】



【動機付け（関わることの価値）】

[UP要素]

知名度、イメージ、話題、人脈、体調・健康、業績・収入、ブランド、趣味、誇り・喜び、地位・立場、美、パワー、諸能力、知識・知恵、社会貢献、性格・人格、生産性、チャンス、企業拡大、人望・名声 等

[DOWN要素]

悩み、ストレス、体重・肥満、コスト、リスク 等

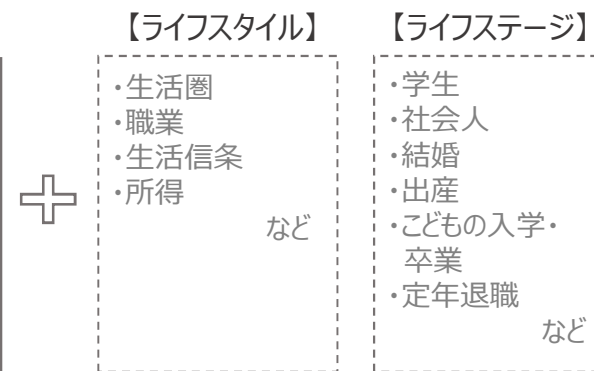
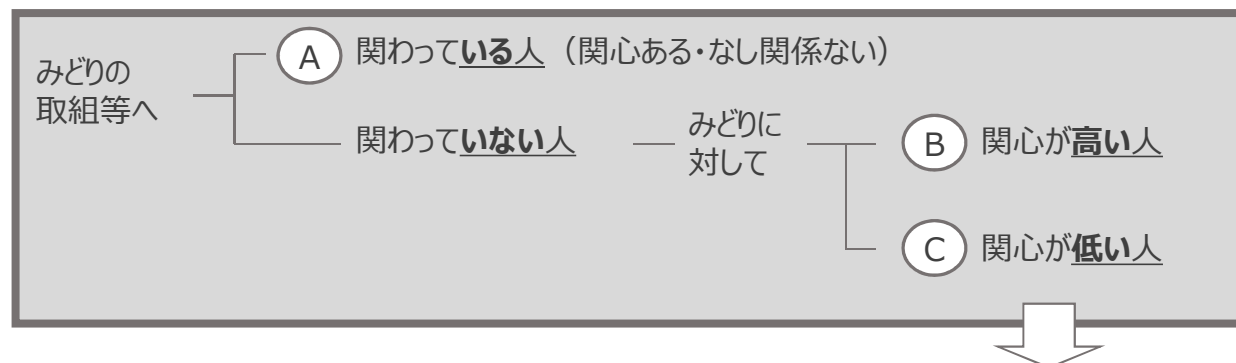
[出典]「新版 広報・PRの基本 p.54」日本実業出版社

2 協働推進

ア ターゲット層の設定

より多くの人々を『みどりでつなげる』ためには、各自の関心事からアプローチすることが有効であることから、現状のみどりの取組等への関わりの分類に加えて、ライフスタイルやライフステージ等に応じたターゲット層を整理します。

【みどりの取組等への関りの有無】



A・B層の参加の一層の拡大に繋がる取組について着実な推進を図るとともに、特に、C層に対するアプローチに力点を置きます

イ アプローチの設定

魅力的なコンテンツを生む動機付け・きっかけづくりとして、ターゲット層ごとに、各自の動機付け（関わることの価値）を意識し、きめ細やかなアプローチを設定していきます。

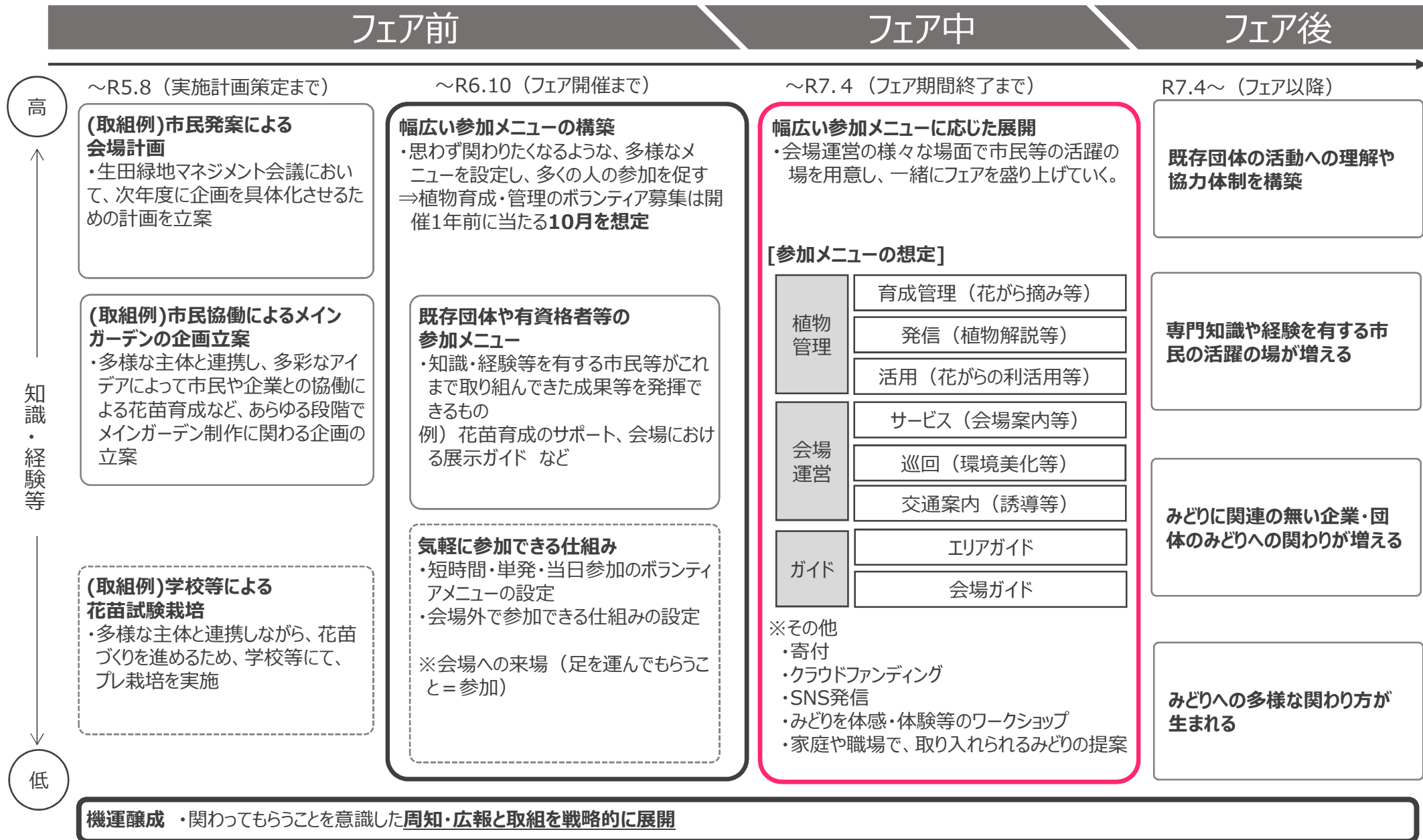
A B

- 関わってもらうことを意識した周知・広報と取組を展開
- 思わず関わりたくなるような、多様なメニューを設定
例) 体験イベントや各種取組に係るコンテスト など

C

- 何よりもまず、知ってもらうことを意識した周知・広報の徹底
- 知らないうちに、いつの間にか関わっている状況を作る
- みどりととは別の動機付けを入り口とするコンテンツを用意
例) スポーツ、音楽、健康 など

ウ 取組の流れ



2 協働推進

(3) 具体的な取組

ア 協働の花苗育成 『協働の花づくり・花かざり』 の取組



教育・学習面：「感謝」「やさしさ」などの気持ちを育み、「探究心」や「想像力」
を養うなど**花育**の効果が期待される。

R5年度プレ栽培の実施状況（令和5年7月末時点）

次の市立学校等にてプレ栽培を進めています。

- ・市内小学校（3校） 宮前（6/27～）／下作延（6/29～）／柿生（7/13～）
- ・市内中学校（6校） 富士見／塚越／東高津／菅（7/6～）／枳形
／長沢（7/11～）
- ・市立保育園（7園） 大島・古川・中原・梶ヶ谷・土橋・菅・白山（7/10～）
- ・特別支援学校（1校） ※R5秋実施に向け調整中

※企業等においても実施予定

プレ栽培参加者
累計約700人！

（令和5年7月末時点）



プレ栽培の取組事例 ～市立宮前小学校～

- 日時： 令和5年6月27日（火） 9:35～11:30
- 実施場所： 校庭
- 対象： 市立宮前小学校 3年生（約100名）
- 実施方法： **総合学習の授業2コマ**、約12名×9グループに分かれて実施
- 概要： 宮前小学校の卒業生である緑化フェア推進室職員が植物講座を行い、川崎区道路公園センター等とともに、「たねダンゴ®」づくり、植え付け、水やりまでを体験しました。児童の皆さんは植物の話に一生懸命耳を傾け、みんなで楽しみながら植えることができました。

※「たねダンゴ」は、公益社団法人日本家庭園芸普及協会が普及をすすめる新しい種まきの手法で、公益社団法人日本家庭園芸普及協会の登録商標です。

●当日のタイムライン

時間				学校	緑化フェア推進室
	8:30	9:35	65分		会場準備
2 時間 目	9:35	9:45	10分	移動、先生挨拶	
	9:45	10:00	15分	講座	フェアと花育（講師）
	10:00	10:20	20分	「たねダンゴ®」づくり	説明、サポート
	10:20	10:45	25分	中休み	
3 時間 目	10:45	11:20	35分	「たねダンゴ®」づくり	説明、サポート
	11:20	11:25	5分	植付	説明、サポート
	11:25	11:30	5分	水やり、まとめ	まとめ+育て方説明
	11:30	12:00	30分		片付け



イ ターゲット層に応じた参加メニューの設定

持続可能な取組とするためには、フェア開催前から、参加者の興味や都合、知識や経験に応じて自らに合った参加方法を選択できる仕組みをつくる必要があります。ターゲットA層については、みどりへの関心も高く、すでに取り組にも積極的に参加している方を想定しているため、基本的な広報での参加促進が見込めます。ターゲットB層、C層については、ライフステージやライフスタイルに鑑み、取組への参加の障壁となっている事項を解消するため、活動日、活動時間に応じた参加メニューを用意します。

活動日メニュー	活動時間メニュー
・ ホリデー (土日祝日のみ参加) ・ 平日 ・ イベント ・ その場でボランティア ほか、コンテストや体験イベントなどを設定	・ 1 日 ・ 半日 ・ 短時間 (1 時間～ 2 時間程度の参加を想定) ・ 放課後 (学校が終わった後16:00～ 1 時間程度の参加を想定)

ウ 共通アイテムの設定

参加した市民が一体感を持ってつながるきっかけのひとつとして、共通のアイテムを製作します。アイテムは緑化フェアへの関わり方によって違うものを準備し、緑化フェア後もみどりの活動等で継続して使えるような実用性とデザイン性を兼ね備えたアイテムとします。

エ みどりに対して関心が低いターゲット (C層) への仕掛け

様々なかかわり方で、気が付けばフェアに参加していたという仕組みをつくり、フェアへ関わる取組を展開します。

楽しみながら無意識に、いつの間にかみどりに関わっている状況づくりを、ナッジ理論 (※) を活用して進めます。

※ナッジ理論とは、軽く促す小さな工夫で人の行動をより良い方向に変えることができるというもので、人間の意思決定の癖を利用し、相手に命令することなく意図する方向へもっていくという行動経済学の理論です。イギリスのナッジ・ユニットが開発した「EAST[®]」フレームワーク (Easy (簡単に)、Attractive (魅力的に、目立つように)、Social (社会に合わせて)、Timely (タイミングを計って)) などの考え方を踏まえ、楽しみながら無意識に、いつの間にかみどりの活動を行っていたという環境をつくる仕組みとします。

オ ボランティアによる参加

(ア) 実施方針

- ・ 川崎市の貴重な財産である協働の取組を支える様々な**既存ボランティアと連携を図りながら、フェア開催前から「みんながつながる」ことを目指し**、参加者が興味関心を持つようなコンテンツを用意し、**一体感の創出、参加者同士の交流を促していきます。**
- ・ **植物育成・管理**については、**協働の花苗育成のサポートなど、フェア開催前から会場づくりに関わっていただく**とともに、さらなる知識・経験の蓄積を図るため、講習会等への参加を促します。
- ・ **会場・エリア**については、会場内の案内や運営補助、会場へ向かうアクセスルートでのお出迎えなど、参加者とともに**おもてなしの演出**を行います。
- ・ 多様な主体がつながり、重なり合う「市民総参加の仕組み」の構築に向けて、かわさきフェアを自分事として捉えるよう意識の変化を促すこと、参加による誇りや仲間意識の醸成等を図るために、ストーリー性を持たせた「愛称付け」等を行います。

(イ) 主な業務内容

【植物育成・管理】	協働の花苗育成のサポート、会場内植物維持業務サポート、植物解説、花がらの利活用 など
【会場運営サービス】	会場案内、迷子対応、落とし物サポート、貸出サポート（車椅子等） など
【会場サービス】	会場内巡回、会場管理サポート、乗車待ち列案内、環境美化、介助サービス など
【エリア巡回サポート】	会場外巡回、場外誘導、駐輪場案内、環境美化（ごみ拾い等） など

(ウ) 募集計画

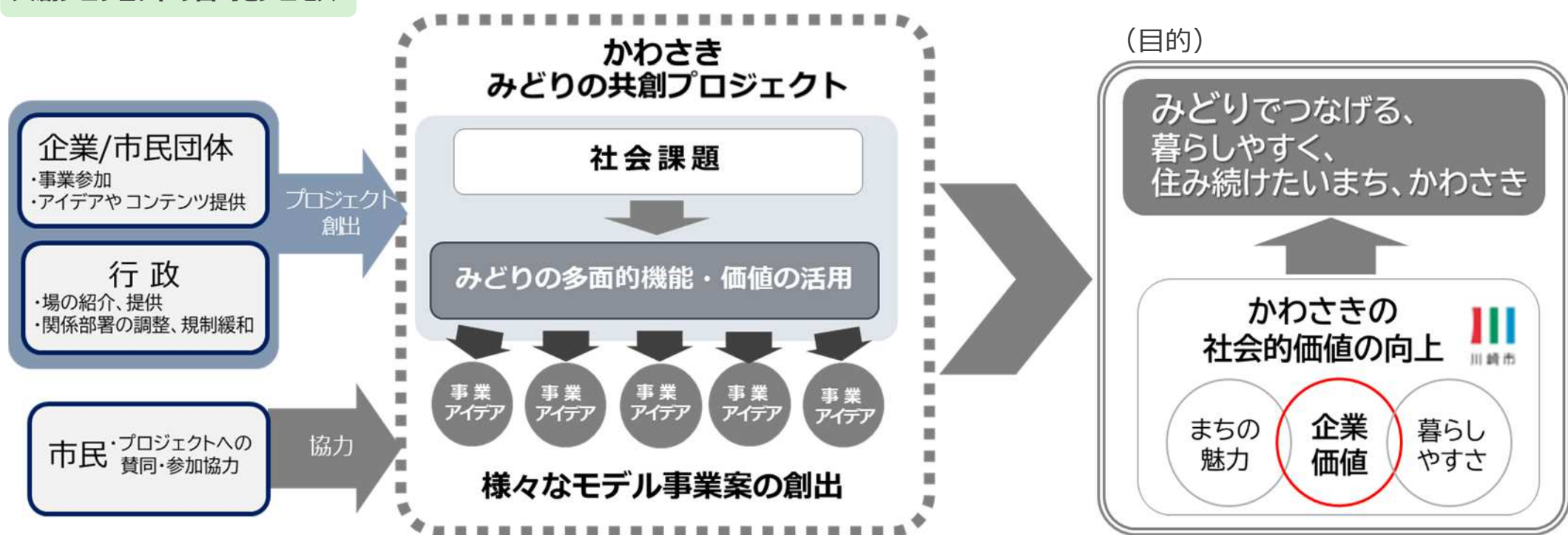
- ・ **植物育成・管理のボランティア募集**については、開催 1 年前にあたる**令和 5 年 10 月から実施を予定**しています。**その他の業務内容**については、**令和 6 年 4 月以降を予定**しています。
- ・ 市民、学生、関係団体、企業等がアクセスしやすいよう、フェアのホームページなどにより募集を行います。

カ 実行委員会参画団体等との共創の取組

みどりの力を活かし、市民、企業、大学、行政等の多様な主体との共創により、『みどりでつなげる、暮らしやすく、住み続けたいまち』の実現を目指す取組を進めます。

共創の取組事例 ～かわさき みどりの共創プロジェクト～

共創プロジェクトの目的とプロセス



- ・多様な主体が、互いの知見を持ち寄ることで生み出される、**柔軟な発想をもとにしたこれまでにない事業案を提案**
- ・行政職員も検討過程に加わり、関連分野の**最新の動向や制度を踏まえる**ことで、**社会実装の可能性を向上**
- ・生み出されたアイデアは、**既存事業の見直しや加速化、新規事業のアクセントとしても活用**

3 観客誘致・広報宣伝

(1) 観客誘致

ア 基本的な考え方

○広報宣伝活動及び行催事については市制100周年記念事業と連携し、みどりの取組に関わっている市民はもちろん、幅広い市民と市外からの来場促進等を図ります。

○フェアのコンセプトや川崎市の可能性を感じてもらうことで、シビックプライドを醸成するとともに、関係人口を増やしていきます。

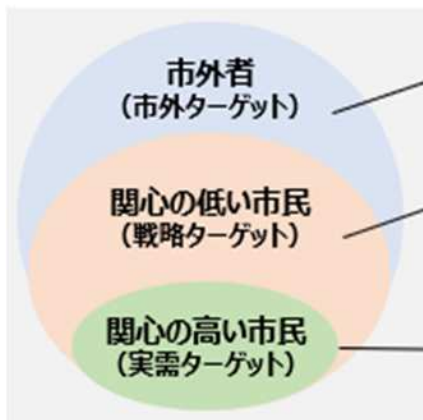
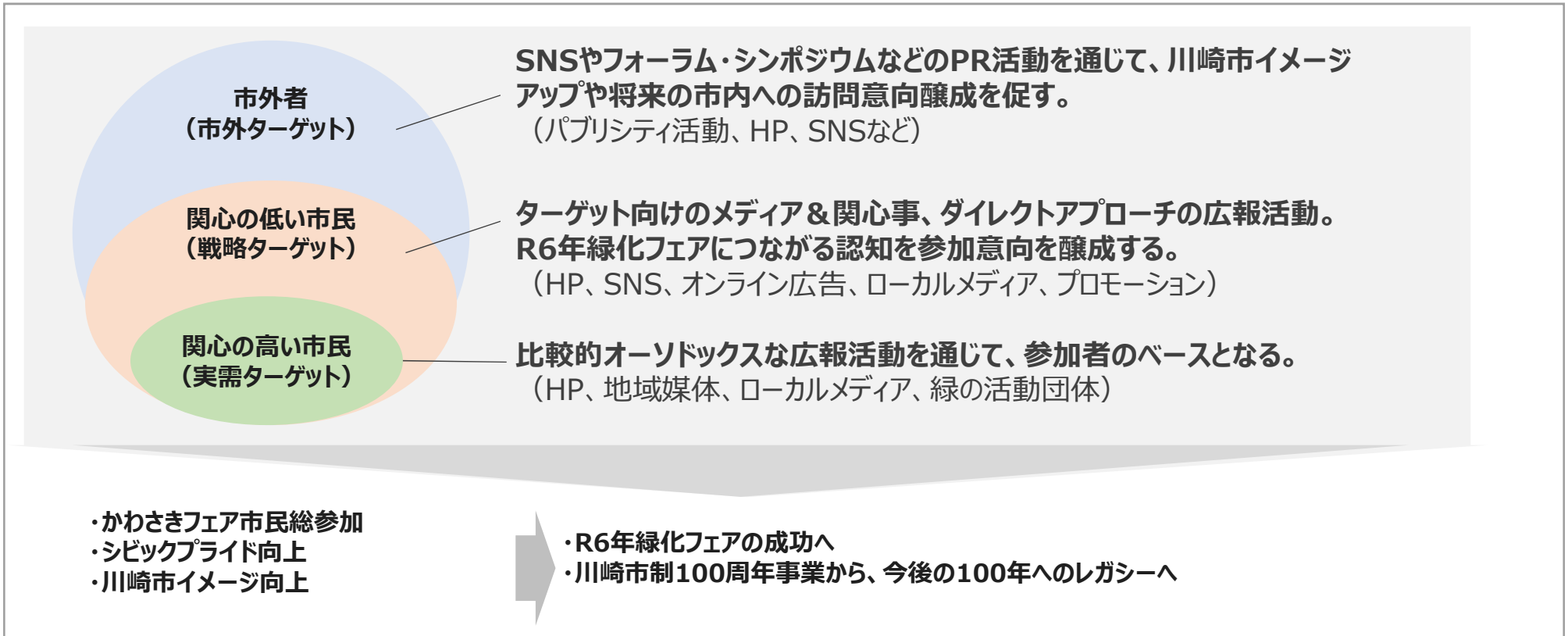
イ 観客誘致の実施方針

- ・ 協働推進の考え方を踏まえて、次のとおりターゲット層を設定します。
- ・ ターゲット層に応じて、SNSやホームページ等のWEBメディアやデジタルテレビ・ラジオ・新聞等のマスメディア、屋外広告物、パブリシティなど、メディアミックスで全世代に情報が届くように戦略的な広報を実施します

ターゲット層		取るべき主な活動
市内	A みどりの取組等へ関わっている人	・直接のアプローチ ・H P や地域媒体を通じたパブリシティ活動
	B みどりの取組等へ関わっていない + みどりに対して関心が高い人	・直接のアプローチ ・パブリシティ活動 ・場を活用したプロモーション
	C みどりの取組等へ関わっていない + みどりに対して関心が低い人	・オンライン広告、屋外広告 ・関心の高いコンテンツを入口としたプロモーション活動
D 市外の人たち		・オンライン広告やP R ・花の名所等でのP R

3 観客誘致・広報宣伝

【ターゲット層ごとの実施方針】



市外のみどりに関心のある人を対象に、関東近郊の公園や庭園、花と緑の展示等を行っているところを中心に、みどりをきっかけに川崎を知ってもらい、関わってもらい（訪問してもらう）ことにより、川崎のイメージ向上につなげます。

市内のみどりに関心のない人を対象に、その人にとっての趣味や関心事等をきっかけに、市内の様々なみどりの取組や活動を知ってもらい、関わってもらい（参加してもらう）ことにより、みどりによって心豊かな暮らし（ウェルビーイング）を実現し、暮らしやすく住み続けたいまちとして、川崎のシビックプライドの醸成を図ります。

市内のみどりに関心のある人を対象に、フェアをこれまでの取組のお披露目のきっかけとして活用し、既存の地域コミュニティの更なる発展等につなげるため、みどりに関して直接的な情報提供を行い、心豊かな暮らし（ウェルビーイング）を実現はもちろん、多くの人と人のつながりを生み出すことを目指します。

3 観客誘致・広報宣伝

(2) 広報宣伝

ア 基本的な考え方

- 観客誘致等の基本的な考え方に基づき、効果的な広報宣伝を展開します。
- 魅力的な取組を広報することで、多くの人の巻き込みを狙います。
- 特に会期中は、まち全体でおもてなし感を醸成します。
- 取組が集中する期間を広報集中として設定し、効果的に広報宣伝を行います。

イ 広報宣伝の実施方針（集中期間の考え方）

100周年事業は通年行なうなか、
かわさきフェアは集中期間を設定し、約1～3ヶ月前から広報を実施

市制100周年

通年【1月(新年)、7月(市制記念日)、11月(フェス&カンファレンス)】
かわさきフェア

10月(秋開催)、3月(春開催)

広報集中期間

- ① 99周年 (1年前イベント)
- ② フェス&カンファレンス+ **フェア秋1年前**
(令和5年10～11月)
- ③ 100周年の年に突入(令和6年1月)

- ④ **フェア春1年前**
(令和6年3～4月)
- ⑤ 100周年記念式典
(令和6年6～7月)

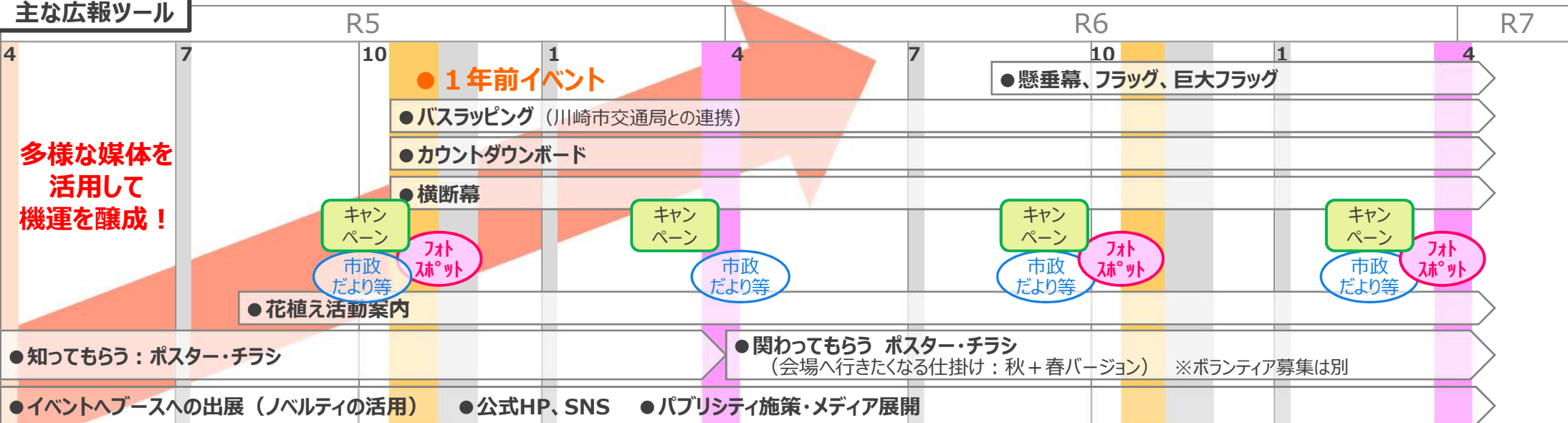
- ⑥ **フェア(秋)**
+ フェス&カンファレンス
(令和6年9～11月)

- ⑦ **フェア(春)**
(令和7年1～4月)

目指すべき将来像

主な広報ツール

多様な媒体を
活用して
機運を醸成！



3 観客誘致・広報宣伝

ウ 具体的な取組

(ア) 広報ツール

●ノベルティ

各種イベントでの配布を予定。かわさきフェアの開催や、ロゴマークへの認知度を高めていきます。



※デザイン変更
の場合有り

花植えラベル



栽培キット



ペーパークラフト



シール

※包装材の簡素化を図るとともに、環境に配慮した製品等を積極的に活用

●ポスター・チラシ・パンフレット等

- ・「知ってもらう広報」はポスター、「関わってもらう広報」チラシをメインに展開します。
- ・ポスターは、フェアの基礎情報や伝えたいメッセージに絞った通常版を作成し、その後、適切な時期に応じて協賛企業ロゴ入り版を作成します。
- ・令和6年度以降はフェアへの期待感を促進するため、具体的な取組に参加し会場へ行きたくなるようなデザインや手に取りたくなる広報物等とします。



(イ) キャンペーン事業

●SNSキャンペーン

みどりやフェアへの関心を高め、各SNSの認知を上げホームページへの導線を確立するため、広報集中期間においてSNSキャンペーン等を実施します。

●緑育・花育の普及啓発

みどりの大切さを普及啓発するため、子ども向けに目に見て分かりやすいグッズ等を作成します。

●全国イベントとのコラボレーション

各自治体のみどりに関するイベントや都市緑化月間等の行事において、川崎のみどりの魅力等を発信します。

(ウ) マスメディア

100周年事業と連携し、TVK「LOVEかわさき」等のテレビ、ラジオ、新聞等を活用して情報を発信します。



3 観客誘致・広報宣伝

(エ) 屋外広告物等

●交通広告

多くの人が利用する公共交通機関の車内広告ほ他、駅の構内やバスラッピング等を活用し、川崎に暮らす人が100周年・緑化フェアを知り、誇りを感じられる彩りを行います。



主要駅でのフラッグ掲示
＜設置イメージ＞

※令和6年の広報集中期間において、川崎駅／京急川崎駅、武蔵小杉駅、武蔵溝ノ口駅／溝の口駅、登戸駅、新百合ヶ丘駅で実施予定。

●横断幕・懸垂幕

小学校等フェンスや横断歩道橋、区役所の壁面等を活用し、多くの人へ情報発信します。



＜横断幕イメージ＞

●カウントダウンボード

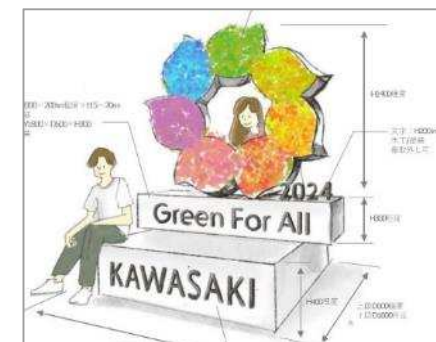
フェア開催に向けて機運醸成を図るため設置します。



R5仙台フェア（仙台駅前）

●フォトスポット

ロゴの型枠を花で彩り、みんなでつながれるきっかけとしてのフォトスポットを設置します。



＜設置イメージ＞

(オ) 情報発信

●SNS・ホームページ等

戦略ターゲット向けの、重要な情報発信媒体として、各SNSからホームページへの導線確立し、確実な認知拡大を行います。



●市の広報誌等

多くの人の目にとまる市政だより等の広報誌やフリーパー等を活用し、広く情報発信を行います。

●パブリシティ

100周年事業と連携してプレスリリース配信サービスを使用し、提携している他メディアへ記事が転載され、より幅広い情報発信を狙います。

(カ) 開催期間中の広報宣伝、観光誘客

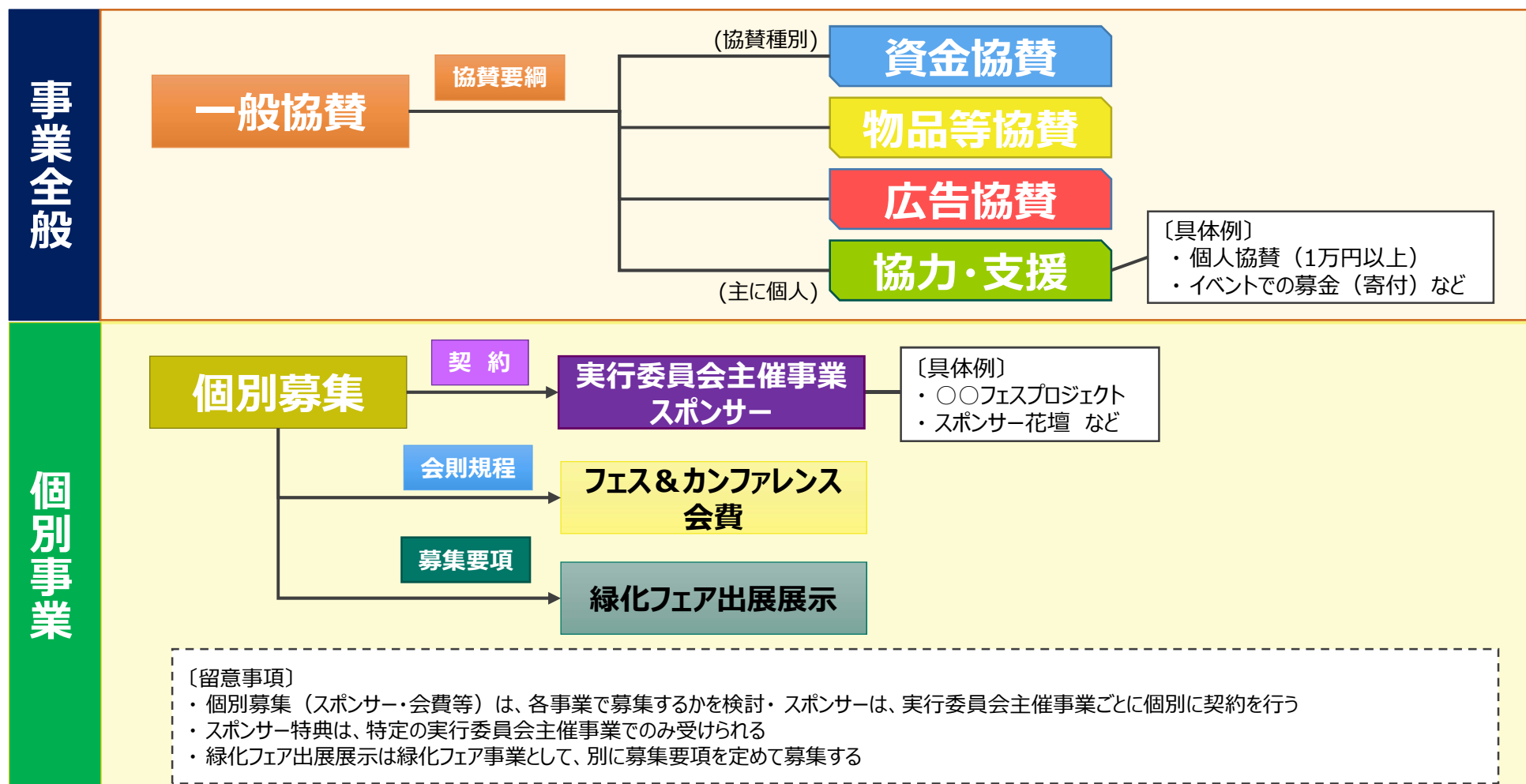
首都圏のフラワーパークでのPR活動や市外イベントでのブース出展により、川崎の取組をPRします。

(1) 基本的な考え方

市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア**実行委員会が主催する記念事業の趣旨に賛同する企業・団体、個人から**、次の100年へ向けた「あたらしい川崎」を生み出す取組を実行するため、**市制100周年記念事業として協賛を募集します**。(令和5年9月 募集)

<協賛の体系図>

市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会が主催する記念事業の協賛の体系図を以下のとおり設定します。



4 協賛

(2) 協賛区分の設定

以下のとおり協賛区分を設定します。

ア 資金協賛

記念事業の趣旨に賛同する方から協賛金を御提供いただきます。

※消費税は別途申し受けます。

イ 物品等協賛

記念事業の運営に必要な資材、物品、施設及び設備、役務等を提供または無償貸与いただきます。

(例) 自動車、自転車、携帯電話・タブレット端末、車いす、ベビーカー、スタッフジャンパー、Wi-Fi通信機器、無線機、子ども用遊具、アウトドア用品、救護備品、催事用備品(テーブル・ベンチ、テント、コーン・バー等)、園芸用品、花苗・種子、役務 など

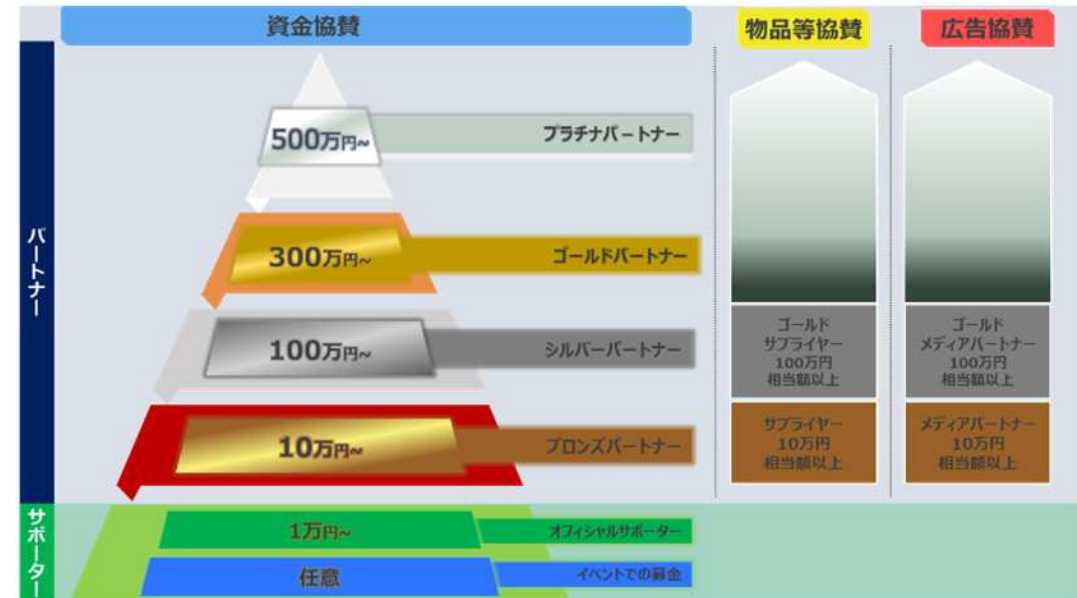
ウ 広告協賛

協賛者が所管する広報媒体及び広告物掲示場所等を御提供いただきます。

(例) 電車・バス・駅・空港などにおける交通広告、商業施設・商店街などにおける屋外広告物、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のマスメディア広告 など

【協賛ランクの設定】

一般協賛の種別ごとに、次のとおり協賛ランクを設定します。



協賛特典メニュー一覧

一般協賛特典 メニュー表	カテゴリー	資金協賛				物品等協賛		広告協賛		協力・支援
	協賛ランク	パートナー				サプライヤー		メディアパートナー		サポーター (個人のみ)
		プラチナ	ゴールド	シルバー	ブロンズ	ゴールド	シルバー	ゴールド	シルバー	
	金額	500万円	300万円	100万円	10万円	100万円 相当額以上	10万円 相当額以上	100万円 相当額以上	10万円 相当額以上	1万円以上
名称使用权										
「〇〇パートナー/サプライヤー/サポーター」名称使用权		○	○	○	○	○	○	○	○	○
パートナーランク別の単色ロゴの使用権		○ (プラチナ)	○ (金)	○ (銀)	○ (銅)					
広報・製作物（※ランク別）										
広報・宣伝への企業・団体名掲載		○ (大)	○ (中)	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	
協賛企業ボードへの企業・団体名掲載		○ (大)	○ (中)	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	
フェア会場エリア内への企業・団体名掲載【★令和5年度申込特典】		○								
ガイドブックへの企業・団体名掲載		○ (大)	○ (中)	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	
公式WEBサイトへの企業・団体名掲載・リンクの設定		○ (大バナー)	○ (中バナー)	○ (小バナー)	テキスト	○ (小ロゴ)	テキスト	○ (小ロゴ)	テキスト	
公式WEBサイト記事・ニュースレター・SNS等への企業・団体名掲載		○	○							
公式記録誌への企業・団体名掲載		○	○	○	○	○	○	○	○	○
実行委員会ユニフォームへの企業ロゴ掲載		○				○				
記念式典（緑化フェア公式行事除く）										
式典会場・エントランスホール内での広報【★令和5年度申込特典】		○ (大)	○ (中)	○ (小)						
プログラムへの企業・団体名掲載		○ (大)	○ (中)	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	○ (小)	テキスト	
その他										
市長受領・感謝状贈呈		○								

※ ★令和5年度申込特典：令和5年度までに協賛のお申込みをした方のみの特典となります（令和6年度以降のお申込みは対象外）。

(1) 基本的な考え方

みどりの価値を感じさせる会場を、大きく3つに区分します。

＜会場計画に必要な視点として**5つのキーワードを整理**

持続可能	…未来につながる取組
すべての人	…市民総参加型のフェア
みどりでつなげる	…人とみどり、人と人のつながりを感じる
多彩なみどり	…街なかの緑地、多摩川、樹林地等を感じる
多様な効果	…様々なみどりの効果を感じる

ア 会場区分

会場区分	定義
コア会場	5つのキーワードを全て取り入れて取組を展開する会場 - 南部・中部・北部に位置にし、それぞれの地域性や特色ある3つの総合公園をコア会場として設定
エリア	駅からコア会場までの主要動線付近にあるまちなかみどりスポットなどを、各エリアのコンセプトを具現化して市内外からの集客を見込むエリアとして設定
まちなかみどりスポット (協賛・連携会場)	5つのキーワードを少なくとも1つを取り入れて取組を展開する会場

イ 会場区分ごとの取組の方向性

コア会場（富士見公園・等々力緑地・生田緑地）

- 各エリアのコンセプトを定め、**川崎らしい都市の中のみどりの価値を発信**
- フェアの**主要な行催事等（公式行事、出展展示等）を実施**するとともに、周辺の地域資源や特色を活かし、多様な主体との協働・共創による様々な取組のショーケースとなる空間を創出し、市内外から来場者を呼び込む仕掛けを展開
- グリーンインフラの効果やみどりの価値等を効果的に発信
- 各公園の指定管理者と連携を図り、出展展示や行催事を実施

エリア（コア会場周辺）

- 多様な主体と連携し、オープンスペースや地域資源を活かし、**みどりの効果を感じながら、安全かつ歩いて楽しめる空間づくりを展開**

まちなかみどりスポット（協賛・連携会場）

- 市内の様々なみどりとオープンスペースを活用し、**日常の活動や取組をフェアを通じて発信**し、市内全域でフェアを盛り上げる一体感を醸成する。
- 訪れる側も、迎える側も、誰もが参加しやすく、親しみやすい名称を設定し、各地域における市民、企業、地域団体等の多様な主体と協働・連携した取組にスポットをあて、それぞれの特色を活かした取組を市内全域で展開

＜例＞

- 身近な公園や商業施設等を活用した、花やみどりを体験・体感できる取組
- 道路沿いや公園の花壇等での花植え活動
- 多様な主体との協働・共創による、エリア全体でフェアを感じられる取組
- 多くの人が集まる駅や公共空間を活用した、コア会場へとつながる期待感等を醸成する取組

ウ 3つのコア会場およびエリアのコンセプト

かわさきフェアの3つのコア会場およびエリアのコンセプトは、地域特性を踏まえ、以下のとおり設定します。

文化・歴史 × みどり

これまでの協働の取組を活かし、歴史・文化を楽しみながら学ぶ取組を展開
人と自然とのつながりの中で、自然を感じ、楽しむことのできる機会を提供し、
生田緑地の持続可能性につながる取組を展開

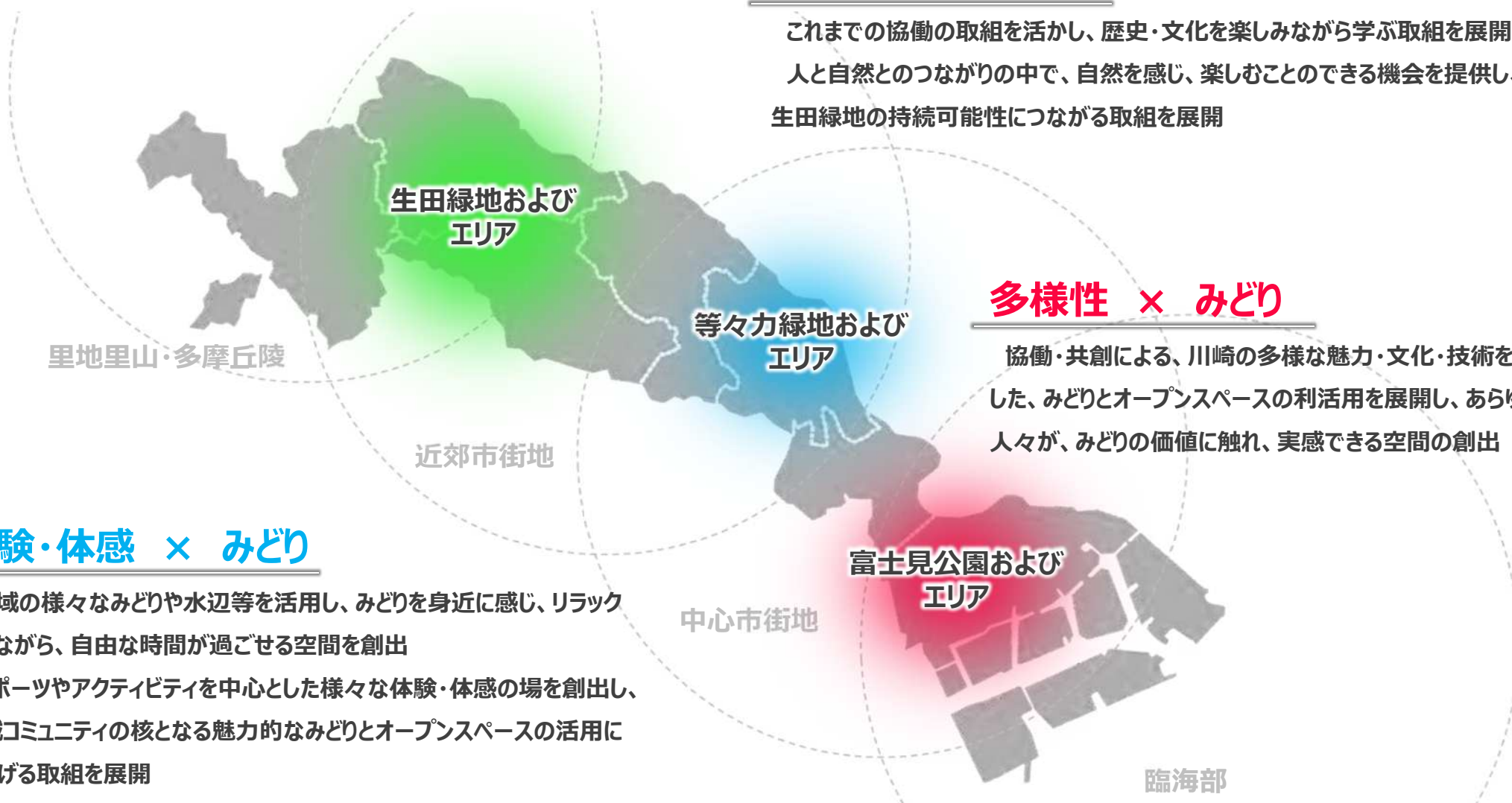
多様性 × みどり

協働・共創による、川崎の多様な魅力・文化・技術を反映
した、みどりとオープンスペースの利活用を展開し、あらゆる
人々が、みどりの価値に触れ、実感できる空間の創出

体験・体感 × みどり

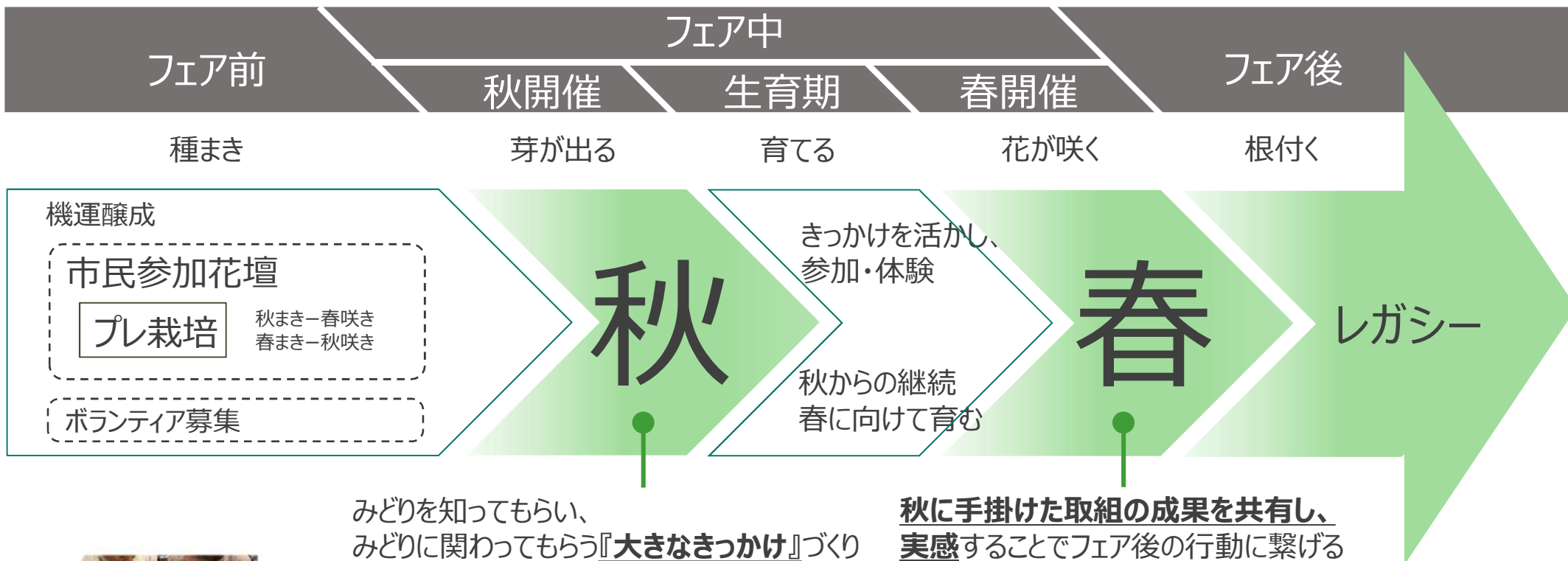
地域の様々なみどりや水辺等を活用し、みどりを身近に感じ、リラックスしながら、自由な時間が過ごせる空間を創出

スポーツやアクティビティを中心とした様々な体験・体感の場を創出し、
地域コミュニティの核となる魅力的なみどりとオープンスペースの活用につなげる取組を展開



エ 2 期開催を活かした取組の展開

これまでの100年 から これからの100年へ



自治体出展花壇



市民協働花壇



5 会場

(2) 富士見公園・エリア

ア エリアの展開イメージ

コンセプト | 「多様性×みどり」

エリア全体で多様性を表現
まちを回遊することで、川崎の多様性を楽しむ
富士見公園まで自然と足が向く花と緑のおもてなし

(エリアについて)

- 富士見エリアはJR・京急川崎駅周辺からコア会場までの市役所通り・富士見通りの両側に広がる商店街、市役所本庁舎、ハローブリッジ等を含めた範囲とします。
- JR東海道線、京浜東北線、南武線や京急本線等により、骨格となる鉄道網が形成されており東京都心や横浜方面など多方面からアクセスが良好です。
- 地域の魅力発信に向けて、ナイトタイムエコノミーやインバウンドへの取り組みなどが広がっています。

(展開イメージ)

○川崎駅前の空間活用

- 川崎の多様な魅力・文化が、まち全体にあふれ出す仕掛けとして、**まち全体とみどりを掛け合わせ「特別な日」を演出**します。
- 駅前空間の取組を拡大し、更なる賑わいを創出します。
- 商業施設、商店街等と連携し、まちを訪れるあらゆる人が、憩い、楽しむことで、街中に人があふれる仕掛けを展開します。

○駅から会場までのアプローチ

- 駅からコア会場までのオープンスペースを活用し、会場への期待感を高めます。**
- みどりを感じながら、歩いて楽しめる空間を創出します。**



上空からみたハローブリッジと富士見公園



富士見通り植栽帯
(自治体出展花壇)

イ エリアの取組

① 市役所通りの公共空間の利活用 ～これからの100年を見据えたウォーカブルなまちづくり～

- ・自転車通行帯と歩道を歩行者中心の空間として活用する**実証実験**
- ・市民が活躍・交流する場の創出に向けた取組の展開
- ・歩きやすく利用しやすいまちづくりに向けた**公共空間の活用**、都市の魅力向上

開催前 面的なにぎわいの創出に向けて、車道空間の活用を実験的に実施

秋開催 歩道と自転車通行帯を利活用する実証実験を実施

春開催 新たな事業者の参画や空間構成の改善等による取組の活性化

レガシー ウォーカブルなまちづくりを沿道事業者等が主体で実施



② 協働のおもてなし花壇 ～自治体出展花壇を引き継ぎ、市民協働で会場までおもてなし～

- ・富士見通り沿いの植樹帯を活用し、全国の自治体が出展する花壇で会場までおもてなし
- ・自治体出展花壇を引き継ぎ、市民協働で制作した花壇で春開催のおもてなし

開催前 全国自治体がデザインした花壇を市内造園事業者が制作

秋開催 会期中の灌水や花がら摘みなど、市民ボランティアが花壇を手入れ

春開催 学校や地域、若者が春に向けておもてなしの花壇を演出

レガシー 沿道の花壇を持続的に育成管理することで、様々な人がつながる



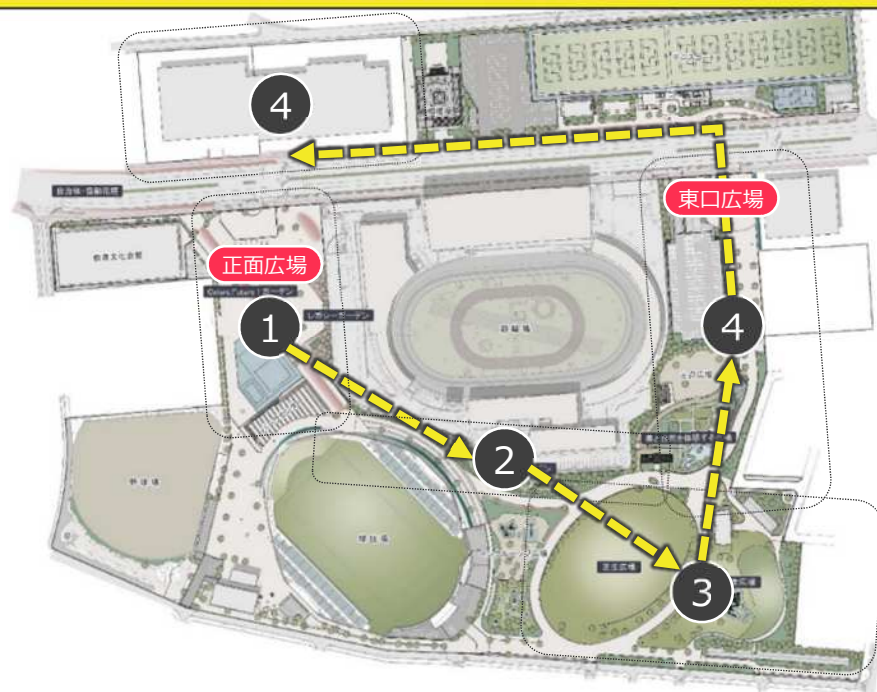
ウ 富士見公園における展開イメージ

●ストーリー

川崎駅から会場まで、花と緑に彩られたいつもと違うまちの風景に、ワクワク感を持って会場へ到着

- 1 市民協働による圧倒的な大花壇に包まれる
- 2 良好な都市環境の形成に寄与するみどりの多面的な価値を知る
- 3 心地よさを感じる公園での自由な過ごし方を体験する
- 4 市民のライフスタイルに、身近なみどりを取り入れるノウハウを習得

みどりをきっかけに、人と人が出会い、コミュニティのつながりが、まち全体へと広がっていく



●展開イメージ

都市の中の多様なみどりの粹を集める

市民のエシカルなライフスタイルを実現する、
みどりの多様な価値を発信

- ・富士見公園西口のエントランスゾーンから園内を周遊するルートをメインルートとし、北側テニスコート前、隣接するカルツかわさきを活用した会場としていきます。
- ・新しい富士見公園において、環境先進都市としてのこれまでの歩みとこれからを市民協働で発信します。
- ・都市の中のみどりの価値を、新たに完成する芝生広場やレインガーデン、農と自然を体感する広場などで発信します。
- ・都市の中のみどりを立体的に表現し、身近に取り入れる要素を織り交ぜた展示とします。

I 会場計画図

自治体出展花壇

富士見公園までのルート上に、おもてなし花壇として全国自治体が出展

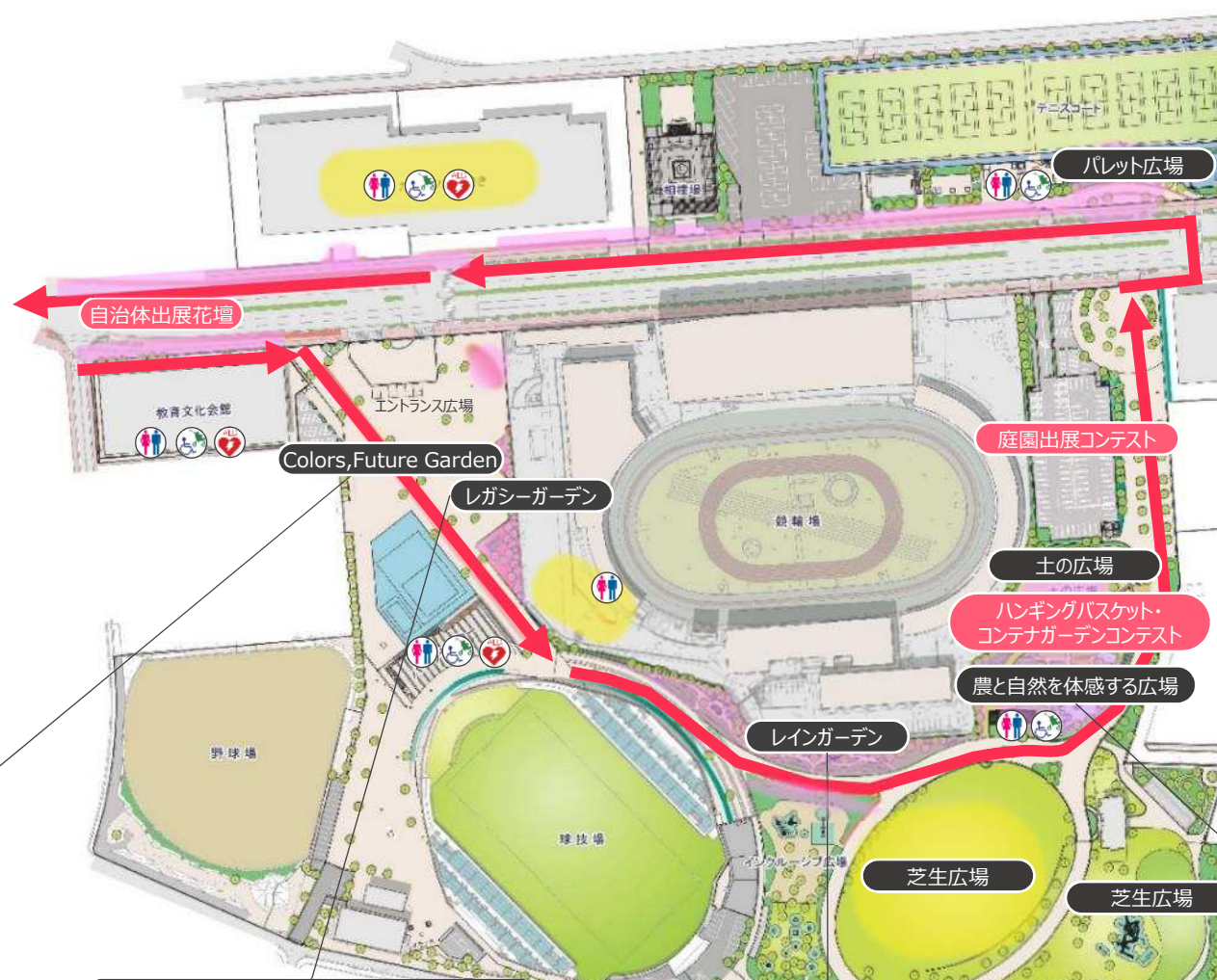


Colors, Future Garden

市民協働で制作する「川崎の多様性」と「これまでの川崎」「これからの川崎」を表現



-  花の装飾
-  メインルート
-  イベントスペース



庭園出展コンテスト

造園や園芸関係の企業や団体等がテーマに沿った庭園を出展



ハンギングバスケット・コンテナガーデンコンテスト

沿道を華やかに彩る作品を展示



レガシーガーデン

工業都市としての発展と環境先進都市としての歩みを表現するガーデン



レインガーデン

新たに作られた雨水貯留機能や水質浄化機能の解説や生物多様性を発信するグリーンインフラゾーン



農と自然を体感する広場

都市農業の体験と農業技術の発表、農によるコミュニティを創出する広場



オ 富士見公園の取組

① エントランス広場 メインガーデン Colors,Future Garden

- ・工業都市としての発展の歴史から、みどり豊かな環境先進都市として歩いていく未来
- ・「川崎の多様性」と「これまでの川崎」「これからの川崎」を表現
- ・花苗育成や植え付けなど、あらゆる段階で市民協働により制作



開催前 学校や企業等が地域ボランティアと協働で花苗を育成

秋開催 育てた花苗を使用した花壇を展示し、市民が管理に参加

春開催 秋に花苗育成の関りが花壇を中心につながりを生み、多様な人々が花苗育成や管理に参加

レガシー 育てた花苗を多くの人に見てもらう感動をきっかけとして、花を育てる楽しみや、地域の人たちとのコミュニティの大切さを実感してもらい、多くの市民が地域活動に参加

② レガシーガーデン ～これまでの100年、これからの100年、つなぐガーデン～

- ・環境先進都市として、これからの100年を市民とともにつなぐガーデン
- ・花苗育成や植え付けなどへの市民参加

開催前 市民などと共に花壇の管理と植栽の実施

秋開催 レガシーガーデンとして植栽及びモニュメントを展示

春開催 多くの人がレガシーガーデンの植栽や管理に参加

レガシー 環境先進都市として環境と産業の調和を目指す考え方が広く市民に伝わる



③ レインガーデン ～自然の有する多様な機能を活かしたガーデン～

- ・雨水貯留機能や水質浄化機能など自然が有する多様な機能を解説するグリーンインフラゾーン
- ・レインガーデンの機能と植栽が融合した良好な景観形成

開催前 富士見公園再編整備事業によりレインガーデンを整備

秋開催 レインガーデン周辺のグリーンインフラゾーンにおいて、技術と環境配慮の手法を展示

春開催 水循環や洪水抑制等の機能解説とともに、春の彩りを感じるガーデンを展示

レガシー 都市型洪水の減災対策などについて考え、環境共生の理解が深まる



④ 農と自然を体感する広場 ～まちなかの農と花の風景の中で、広がるコミュニティ～

- ・農と自然を体感する広場を活用し、まちなかの農と花の風景を創出
- ・農と自然の体感を通じて、新たなボランティア団体の設立・コミュニティの形成

開催前 広場の植栽を活かして、まちなかの農と花をテーマにしたガーデンを整備

秋開催 まちなかの農と花の風景の中で、春作物の植え付けイベントを実施

春開催 春の花で彩られたガーデンの中で、秋に植え付けた春作物の収穫体験を実施

レガシー まちの中で気軽に体験できる農を通じて、都市農業への理解を深め、新たなボランティア団体の設立、メンバーの交流などのコミュニティ形成



(3) 等々力緑地・エリア ア エリアの展開イメージ

コンセプト | 「体感・体験×みどり」

都市の暮らしと共にある、水やみどりとの関わりに気づき、
実感する

(エリアについて)

- ・等々力エリアは武蔵小杉駅周辺を含むJR武蔵小杉駅の北側、JR武蔵中原駅東側、多摩川までの範囲とします。
- ・JR南武線、横須賀線と東急東横線により、骨格となる鉄道網が形成されており東京都心や横浜方面など、多方面からアクセスが良好です。
- ・企業による研究・開発部門等の都市型産業が武蔵小杉駅や武蔵中原駅周辺を中心に立地しています。
- ・多摩川や二ヶ領用水をはじめとした水辺空間、公園緑地、神社仏閣、商店街等の地域資源が豊富にあります。
- ・駅前広場や多摩川緑地等のオープンスペースにおいて、賑わい創出に向けた取組が進んでいます。

(展開イメージ)

○武蔵小杉駅前空間の活用

- ・市民、地域団体、企業等と連携し、駅前広場や駅周辺の民間空地、公園緑地、道路などの様々な空間において、地域のつながりを生み出す魅力的なオープンスペースの活用につながる様々な取組を展開

○駅から会場までのアプローチ空間の活用

- ・二ヶ領用水をはじめ、公園緑地、水辺空間、神社仏閣、商店街等の地域資源とともに、**地域の身近なみどりの魅力にふれ、楽しむことで、地域とのつながりを生み出す仕掛けを実施**

○多摩川の活用

- ・多摩川の豊かな水資源や水辺環境を活かした遊び・交流など、水やみどりとふれあい、楽しむ取組を展開



二ヶ領用水



多摩川緑地

イ エリアの取組

① ニヶ領用水の魅力発信 ～市民協働による新たな花壇づくり～

- ・市民や団体等と協働の取組で、来場者が水とみどりを感じながら歩くことができる魅力ある親水空間を演出
- ・ニヶ領用水の歴史や魅力を発信し、市民等が親しみ関わりやすい取組を展開

- 開催前** 愛護会や小学校等との協働により、花壇を再整備
- 秋開催** ニヶ領用水の歴史や魅力に触れ、楽しみながら散策できる季節の花で彩られた緑道を演出
- 春開催** 桜と桃の花が満開となり、市民協働により守られてきたニヶ領用水の歴史や魅力を発信
- レガシー** フェアをきっかけにニヶ領用水の魅力が伝わり、多様な地域の主体が関わるようになる



※イメージ

② 多摩川の魅力再発見プロジェクト ～多摩川のみどりを身近に感じる仕掛けを展開～

- ・地域団体等と連携し、桜やハマダイコン、セイヨウカラシナ等の自生する植物の魅力の発信や生物多様性を保全
- ・多摩川の魅力を散策しながら、紹介できる仕掛けを展開
- ・水辺を活用したイベント等と連携した取組を展開

- 開催前** 地域活動団体等と協働による魅力を発信する取組の企画
- 秋開催** 地域活動団体等との連携による多摩川の魅力発信できる仕掛けを展開
- 春開催** 桜並木やハマダイコン、セイヨウカラシナ等の花畑を活かした取組を展開
- レガシー** 多摩川魅力を再発見し、市民が都市の暮らしの楽しさを実感



※イメージ

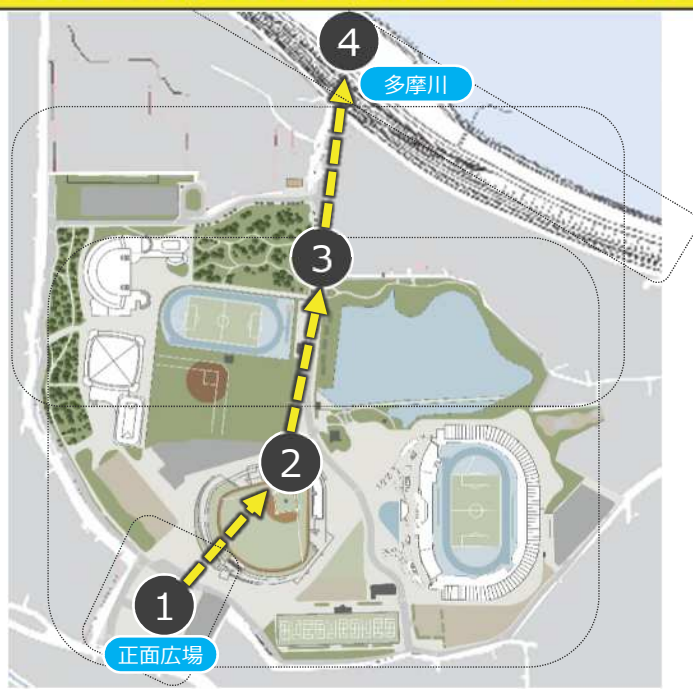
ウ 等々力緑地における展開イメージ

●ストーリー

都市の賑わいを感じながら、まちなかを散策し、
二ヶ領用水の水とみどりを感じながら会場へ到着

- 1 五感で感じる花やみどりを体験・体感する
- 2 官民連携による実験的な取組を通じて、新たなみどりの価値に気づく
- 3 水やみどりを舞台に、様々なアクティビティを体験し、楽しさを実感する
- 4 母なる川・多摩川の豊かさを体感し、新しいライフスタイルを提案する

みどりをもっとアクティブに活用する、新しいみどりとの関係性を発見



●展開イメージ

五感で感じるみどりのアクティビティを展開

みどりをもっとアクティブに、みどりの新しい価値を発信

- ・正面広場や等々力球場、催し物広場等のオープンスペースや、21世紀の森、ふるさとの森等の緑地内のみどりをつなぐ動線をメインルートに、緑地内の施設を活用した会場とします。

●五感を刺激する体験・体感をテーマにした展示等を展開します。

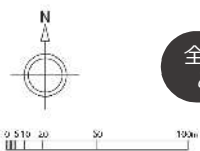
- ・企業やスポーツ団体等との連携により、みどりに囲まれた空間で、スポーツやアクティビティを楽しむ取組を実施します。
- ・多摩川や公園で活動する市民等との連携により、みどりや水辺等を活かした取組を展開します。

Ⅰ 会場計画図

**公民連携による五感をテーマにした
メインガーデン**
「五感を刺激するみどり」多彩なアイ
デアが織りなす体験・体感型ガーデン
を設置



全国にとどろけ！みんなの花畑
エントランスに相応しい花のおもてなしを展開



水面を彩るウォーターガーデン
季節の花による等々力緑地ならではの水辺を使った演出



ロングボーダーガーデン
水辺空間とのボーダーであることを意識したナチュ
ルガーデンを市民協働で制作



全国にとどろけ！
みんなの花畑

オ 等々力緑地の取組

① 公民連携による五感をテーマにしたメインガーデン ～ Active Garden ～

- ・『「見る緑」から「五感を刺激するみどり」へ。』をテーマ
- ・様々なアイデア・ノウハウを有する企業・団体や、これからの未来を担う若者等と協働によりガーデンを制作

開催前 企業・団体や若者との協働によりガーデンを制作

秋開催 五感を刺激するみどりをテーマに体験・体感型のインスタレーションを展開

春開催 秋の開催をきっかけに集結した企業・団体等の参加によりガーデンを再構築

レガシー ガーデンの一部を地域の公園に展示し、企業・団体等の連携による新たな協働の取組が展開



② ロングボーダーガーデン ～水際を彩る延長100mのナチュラルガーデン～

- ・水辺空間にナチュラルガーデンを市民協働で制作
- ・『野原を歩く』ことを楽しませる小径を創り、「触覚」や「嗅覚」を楽しませる五感の仕掛け
- ・多摩川の植物を紹介するボタニカルアートを点在させ、多摩川へのアプローチを演出

開催前 地元の活動団体等と協働による花壇の検討、ガーデンの制作

秋開催 水辺空間とマッチしたガーデンを演出。小径を歩く体験を通じて5感の仕掛けを提供

春開催 春の草花を中心としたガーデンの演出。活動団体等による管理の継続

レガシー 等々力緑地の新たなみどりのカタチを継承し、ガーデンが地域の憩いの場、コミュニティの場となる



※イメージ

③ 水面を彩るウォーターガーデン

- ・季節の花を活用し、等々力緑地の釣池の水辺空間を彩る演出
- ・小中学校や保育園等が参加して作った花を活用

開催前 企業や団体等と協働した水面緑化の制作

秋開催 秋の花の彩りによる水面の修景

春開催 協働で育てた春の花で水面を演出

レガシー 水辺の修景をきっかけに、水とみどりの魅力を実感し、生活を豊かにしていく



※イメージ

④ 全国にとどろけ！みんなの花畑

- ・等々力緑地のエントランスに、小中学校や保育園・幼稚園等が参加して作った花を用いた花畑を創出
- ・エントランスにふさわしい花畑のおもてなしと、フотスポット等の仕掛けを展開

開催前 小中学校や保育園・幼稚園等が参加して花苗の育成と植え付けを実施

秋開催 等々力緑地のエントランスとして花のおもてなしを展開

春開催 小中学校等と春の花へと植え替えを実施し、春の花のおもてなしを展開

レガシー 花育・緑育の推進、花を用いた地域の彩りづくり・コミュニティ形成



※イメージ

(4) 生田緑地・エリア

ア エリアの展開イメージ

コンセプト | 「文化・歴史×みどり」

まちなかに突然現れる市内随一の緑の宝庫と秘密の花園、
みどりの世界に吸い込まれていく

(エリアについて)

- ・小田急線「向ヶ丘遊園駅」周辺及びJR南武線・小田急線「登戸駅」周辺から生田緑地東口と生田緑地ばら苑入口に至るまでの動線部分とします。
- ・向ヶ丘遊園駅・登戸駅周辺では区画整理事業により新しいまちづくりが展開され、試験的に公共空間の活用等が行われています。
- ・向ヶ丘遊園駅から生田緑地に向かう途中では、商店街によるお祭りや、ばら苑アクセスロードにおけるバラの育成管理等、地域の取組が展開されています。

(展開イメージ)

○歩いて楽しめる空間づくり

- ・周辺の町内会・自治会や商店街等と連携し、協働の花壇づくりや公共空間の活用を展開し、歩いて楽しめる空間づくりを展開します。

○会場間のアクセス向上

- ・会場間の移動をサポートするため、マイクロバス等による運行を行います。
- ・会場間や駅と会場の行き来がしやすくなるような誘導や案内について工夫を図ります。



登戸・遊園ミライノバ ハレの日2022



生田緑地ばら苑アクセスロード

イ エリアの取組

① 駅から生田緑地会場までのおもてなし — 地域の多様な団体による花とみどりの演出

- ・駅前から生田緑地を感じる緑の修景と協働によるおもてなしを展開
- ・地元の大学と連携し、フォトスポット等の創出
- ・会場までの沿道にて、周辺の町会と連携した花のおもてなしを展開

開催前 地域の多様な団体と協働し、生田緑地のおもてなしを企画

秋開催 多様な団体が花やみどりでまちを彩り、地域のおもてなしを感じられる装飾と取組の展開

春開催 商店街や若者、地元町会等の多様な団体が交流・連携し、おもてなしの活動が更に活性化

レガシー 多くの住民がつながり、自分のまちに愛着を持ってまちづくりに参加する機運を醸成



イメージ【ベンチの装飾】

② ばら苑アクセスロード — バラを楽しみながらばら苑までのワクワク感の創出

- ・ボランティア活動団体と連携し、育成管理しているバラの解説プレートの設置など、おもてなしの取組の展開
- ・地道な管理活動の発信や、地域の交流等により、協働の輪を広げていくきっかけづくり

開催前 ボランティア活動団体との協働により市民の目線からバラの解説プレート等を準備

秋開催 管理しているボランティアの活動の発信やバラの魅力を発信

春開催 秋開催をきっかけに地域の交流が広がり、興味を持った人がボランティア体験に参加

レガシー フェアを通じた地域の交流等により、協働の輪が広がる



イメージ【手作りの植物プレート】

ウ 生田緑地における展開イメージ

●ストーリー

市内随一の緑の宝庫から、文化・歴史を学び、みどりに触れてみたくなる
～花のもてなしにより、地域の人々の想いを感じながら会場へ到着～

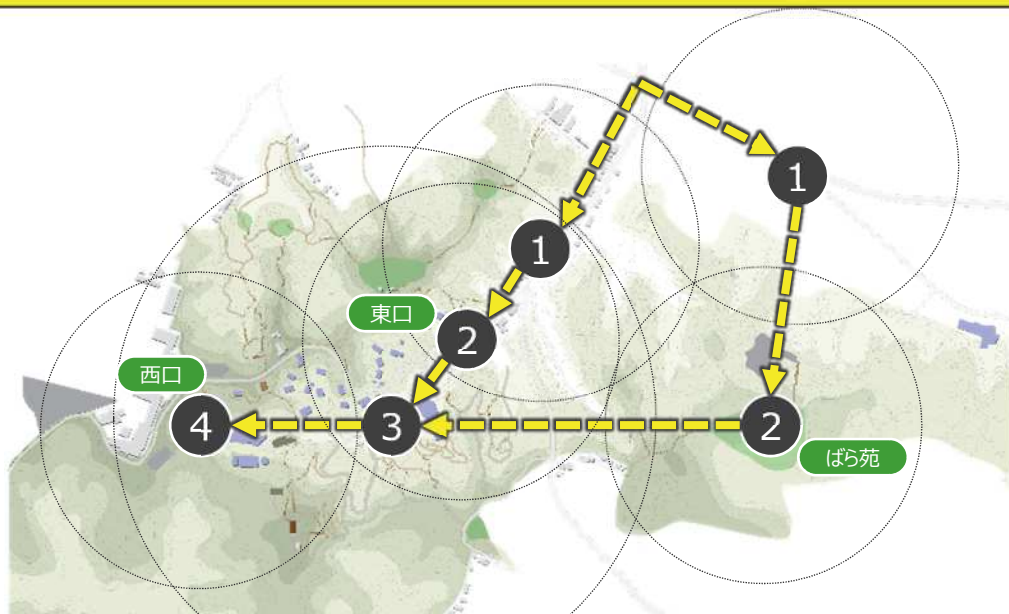
1 市民によって育てられたまちなかの花・みどりを眺めながら歩みを進める

2 市内随一の緑の宝庫と秘密の花園が現れる

3 人と自然の関わりによって育まれたみどりの文化・歴史を学ぶ

4 自然を感じ、楽しむ体験を通じて、自然の中で活動する楽しさや喜びを実感する

人と自然がつながることの大切さを学び、みどりに関わりたいという意識の芽生え



●展開イメージ

緑豊かな緑地の中で、みどりの文化と歴史を学ぶ

人と自然がつながることの大切さを実感し、
市民活動によって守り育まれてきたみどりの価値を発信

・生田緑地東口から西口広場をつなぐ動線をメインルートとしながら、秋のばら苑など、季節の魅力・特色に応じて緑地内の施設を活用した会場とします。

・生田緑地の各所で、豊かな自然資源を活かし、生物多様性等みどりがもたらす効果について、楽しく学べる環境教育等の取組を展開します。

・協働のプラットフォームが主体となり、生田緑地のみどりの価値や市民協働による緑地管理の歴史等を発信します。

・中央広場を拠点に、緑地内の施設と連携した魅力発信や、園内を散策してもらう機会をつくれます。

・緑地内に自生する在来植物の保全や、ササ・タケ類等については、資源として活用します。

Ⅰ 会場計画図

東口～日本民家園～中央広場

タケを活用した空間演出と資源の活用発信



生田緑地ばら苑

ばら苑の歴史を紐解きながら、新たなばら苑の魅力づくりを市民協働によりチャレンジ



中央広場～かわさき宙と緑の科学館

生田緑地の誇る自然資源と市民活動の発信



メタセコイア林～岡本太郎美術館～西口広場

緑地の資源を活用し、自然を感じ、楽しむ体験の展開



オ 生田緑地の取組

① 生田緑地ばら苑 — ばら苑の歴史を紐解きながら、新たなばら苑の魅力づくりを市民協働によりチャレンジ

- ・剪定した花を用いた修景や、パーゴラを用いた彩りづくり、一輪のバラを愛でる仕掛けなど、**新たなばら苑の魅力を創出する空間演出**を展開
- ・ばら苑や、バラの文化・歴史を伝えるためのパネル展等を市民協働により展開

開催前 バラの魅力を最大限に発揮させる方法を市民協働で企画

秋開催 ばら苑の空間演出とおもてなしの展開

春開催 春のばら苑開苑に向けた市民協働のイベント実施

レガシー ばら苑の新たな魅力が生まれ、
人々がばら苑を知って、関わって、好きになる



※イメージ

② 東口～日本民家園～中央広場 — タケ等の緑地資源を活用した空間演出

- ・**緑地管理で発生するタケ等を活用し**、アーチや灯籠等による空間づくりを展開
- ・伝統的な活用を体験型ワークショップにより発信するとともに、**使用した資材を再資源化する取組**についても発信

開催前 市民協働により、タケ等を活用した修景やワークショップ等を企画

秋開催 タケ等を用いた会場修景とワークショップ等を実施

春開催 使用したタケ等を再資源化する取組のデモンストレーションを実施

レガシー 訪れた人が緑地資源の活用や、再資源化の取組を知り、
緑地の魅力に気づく



※イメージ

③ 中央広場～かわさき宙と緑の科学館 — 生田緑地の誇る自然資源と市民活動の発信

- ・生田緑地の自然の魅力を植物画等の展示を通じて発信し、緑地内へと誘う仕掛けを展開
- ・生田緑地の市民活動の歩みを踏まえながら、ナラ枯れなど、現在直面している課題を取り上げた展示や、シンポジウム、ガイドツアー等を展開

開催前 → 市民協働により、来場者へ伝えていきたい内容や発信方法について企画

秋開催 → 展示やシンポジウム等を通じて自然資源と市民活動の発信、課題の共有化

春開催 → 秋に参加した人にも関わってもらいながら、課題解決に向けてのキックオフ

レガシー → フェアの取組をきっかけとして、緑地の活動を支える新たな担い手を発掘



※イメージ

④ メタセコイア林～岡本太郎美術館～西口広場 — 緑地の資源を活用し、自然を感じ、楽しむ体験の展開

- ・ナラ枯れ樹木を活用したチェーンソーアートや、ベンチ展示等を展開
- ・メタセコイア林における藍染装飾や、アートワークショップ等の開催により、自然を感じ、楽しむ体験を通じて、自然の中で活動する楽しさや喜びを提供

開催前 → 市民協働により、間伐材等の緑地資源の活用について企画

秋開催 → アート展示やワークショップ等の開催

春開催 → 展示したベンチ等を緑地内の各地へと移設し展開

レガシー → より多くの市民が緑地の管理を学び、知識を得て、関わるようになる



※イメージ

(5) まちなかみどりスポット

ア 展開イメージ

- ・ 市内の様々なみどりとオープンスペースを活用し、日常の活動や取組をフェアを通じて発信し、市内全域でフェアを盛り上げる一体感を醸成します。
- ・ まちなかみどりスポットの考え方として、令和5年度から魅力的なコンテンツ等の周知と広報を一体的に行い、取組を知り、関わるきっかけとなるよう積極的に取組を進めていきます。
- ・ まちなかみどりスポットそれぞれをつなぐ取組として、身近なみどりを知り、楽しみながら回遊できる仕掛けを実施します。



例：多様な主体による利活用が行われている公園
(橘公園・王禅寺ふるさと公園)



例：市民活動が行われている緑地
(菅生緑地)



例：特色のある公園
(夢見ヶ崎公園)

イ まちなかみどりスポットの例

各地域における市民、企業、地域団体等の多様な主体と協働・連携した取組にスポットをあて、それぞれの特色を活かした取組を市内全域で展開します。

(例) 公園緑地、駅前広場、道路、河川、庁舎、商業施設、商店街 など

多摩区

＜主な特色＞

- ・生田緑地を拠点とした豊かな自然と歴史・文化・芸術の魅力を活かしたまちづくり
- ・里地里山の保全や豊かな自然資源を活用した交流、賑わいの創出

＜まちなかみどりスポットの例＞

緑化センター、稲田公園、多摩川緑地、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺 ほか

高津区

＜主な特色＞

- ・多摩川や二ヶ領用水、たちばな古代の丘緑地など、緑、水辺と一体となった魅力的なまちづくり
- ・地域資源を活用した持続可能な地域社会（エコシティたかつ）の形成

＜まちなかみどりスポットの例＞

橘公園、多摩川緑地、二ヶ領用水、たちばな古代の丘緑地、溝の口駅周辺 ほか

中原区

＜主な特色＞

- ・小杉駅周辺の公共空間を活用した居心地がよく住みやすいまちづくり
- ・等々力緑地におけるパークマネジメントの推進によるまちの賑わい創出

＜まちなかみどりスポットの例＞

中原平和公園、中丸子緑道、多摩川緑地、こすぎコアパーク、小杉駅周辺 ほか

麻生区

＜主な特色＞

- ・保全緑地における保全と利活用の取組による子どもたちがのびのびと自然にふれあい成長できる空間づくり
- ・農ある風景の保全と農家・市民と連携した地域農業の振興による魅力的なまちづくり

＜まちなかみどりスポットの例＞

王禅寺ふるさと公園、王禅寺四ツ田緑地、黒川・早野・岡上などの里地里山・農地、新百合ヶ丘駅周辺 ほか

宮前区

＜主な特色＞

- ・生田緑地を拠点とした豊かな自然と歴史・文化・芸術の魅力を活かしたまちづくり
- ・歴史的遺産や農といった地域資源を活用し、緑、水と一体となった魅力的なまちづくり

＜まちなかみどりスポットの例＞

菅生緑地、東高根森林公園、平瀬川、宮前平・鷺沼駅周辺 ほか

幸区

＜主な特色＞

- ・夢見ヶ崎公園を活用した賑わいの創出、地域コミュニティ形成
- ・御幸公園における地域の魅力創出

＜まちなかみどりスポットの例＞

夢見ヶ崎公園、御幸公園、さいわい緑道、多摩川見晴らし公園、新川崎・鹿島田駅周辺、川崎駅西口 ほか

川崎区

＜主な特色＞

- ・富士見公園を拠点としたまちの賑わい創出に寄与するまちづくり
- ・臨海部の魅力的なロケーションを活用した交流と賑わいの創出

＜まちなかみどりスポットの例＞

大師公園、稲毛公園、市役所通り、川崎市役所新本庁舎、臨海部（キングスカイフロントなど）、川崎駅周辺 ほか

(1) 展示の基本的な考え方・展開イメージ

- 各会場のコンセプトに合わせた展示とし、フェア開催前や育成期の協働の取組と一体的に行います。
 - 会場となる公園の指定管理者と協議し、運用や育成期の取り扱いなどについて調整します。
 - 秋と春の2期開催とするかわさきフェアにおいて、内容に応じてより適切な展示期間を設定します。
- なお、秋と春ともに展開する展示については、原則として規模や場所を秋と春で共通とし、季節を感じる展示を行います。

ア 「川崎のみどり」の歴史とこれからのみどりを考えるきっかけとなる展示

- ・ 川崎のみどりの歴史やこれからの川崎のみどりについて、パネル等を用いて展示し、次の100年に向け川崎市が目指す環境 先進都市のあるべき姿を市民とともに考える展示とします。

イ 壁面緑化等みどりの新しい技術の発信

- ・ 様々な素材や手法を活用し実際の壁面を使った色鮮やかな壁面緑化を、平易でわかりやすい言葉を使った解説板を設置し、都市緑化の技術の進歩を実感させる展示とします。



写真：2023仙台フェア展示事例
(仙台ばら会の展示)



写真：2023仙台フェア展示事例
(室内緑化の展示)



写真：2023仙台フェア事例
(案内所の壁面緑化)



写真：2023仙台フェア展示事例
(壁面緑化の解説)

(2) 出展の基本的な考え方・展開イメージ

- 全国の関係機関・団体との連携により、各コンテスト等を開催します。
- 各コンテスト等は秋開催時期に、富士見公園及び富士見通りにて開催します。

ア 自治体花壇出展（令和5年5月～6月 募集）

- ・ 川崎駅から富士見公園までのルート上にある富士見通りに、おもてなしの花壇として出展します。

イ 企業・団体等庭園出展コンテスト（令和5年秋 募集）

- ・ 造園や園芸関係の企業や団体等からの出展を募ります。
- ・ みどりを身近に取り入れたライフスタイルを提案するため、住まいや仕事の空間、建物の壁などの3つのタイプを設定し、「暮らしを彩る私たちのみどり」をテーマとします。

ウ ハングングバスケット・コンテナガーデン出展コンテスト（令和6年夏 募集）

- ・ まちの花飾りの一つの手法である「ハングングバスケット」について、沿道を華やかに彩る作品をラティスフェンス等の壁掛け展示をします。
- ・ まちなかや庭先を彩る「コンテナガーデン」について、みどりを身近に感じられる作品を富士見公園内に展示します。

エ 全国造園デザインコンクール（令和5年8月 募集）

- ・ 高校生を対象とした「全国造園デザインコンクール」の緑化フェア「みどりの広場」部門の受賞作品を富士見公園内に作庭します。



写真：2023仙台フェア出展



写真：2023仙台フェア出展



写真：2023仙台フェア出展



写真：2020ひろしまフェア出展



写真：2019信州フェア出展

7 植物調達・管理

(1) かわさきフェアで使用する花・植物の考え方

ア 「かわさきの植物」の活用

(ア) 区の花・区の木を活用

- ・各区と連携しながら、フェア会期だけでなく様々なイベント等において区の花・区の木を活用します。

(イ) 地域の植物の活用

- ・植物の調達は、『市内産→県内産→県外産』の順で実施します。
- ・市民協働による花苗育成を展開し、会場の花壇等に活用します。
- ・市内産花卉について発信・PRします。

(ウ) 既存の植物の活用

- ・既に植栽されている草花や樹木等の魅力を活かし、引き立たせるような活用を行います。

イ 「市民生活に取り入れやすい花・植物」の選定

(ア) 初心者にも育てやすい花・植物の選定

- ・フェアをきっかけに育ててみたくなる、初心者にも育てやすい花・植物を活用します。

(イ) 様々な環境・ニーズに合わせた花・植物の選定

- ・屋内、ベランダ、オフィス等の様々な環境や市民ニーズに合わせた花・植物を活用します。

(ウ) 持続可能な景観づくりに向けた花・植物の選定

- ・フェア後も残るかわさきの景観づくりに向け、毎年、花を着け、生き続ける多年草や樹木類等についても活用します。



市内産花卉の活用
(例：パンジー・ビオラ／ガーデンシクラメン)



市民協働による花苗育成
・たねダンゴによる育成 (例：マリーゴールド／ジニア／ピンカ)
・牛乳パックによるポット (例：キンギョソウ／ヤグルマギク／リナリア)



既存植物の活用
(例：富士見のソメイヨシノ／等々力のハナモモ・サトザクラ・ハマダイコン／生田のバラ・スミレ類)



様々な環境・ニーズに合わせた植物の選定例
・バイオフィリックデザイン (例：観葉植物／アーティフィシャルフラワー)
・キッチンガーデン・エディブルフラワー (例：ハーブ類／野菜)



持続可能な景観づくりに向けた植物の選定例
・宿根草ガーデン (例：グラス類／球根植物)
・グランドカバープランツ (例：ヒューケラ／ユーフォルビア／シバザクラ)

7 植物調達・管理

(2) 植物調達・管理の考え方

ア 植物の調達

(ア) 市民協働による花苗育成

- ・小中学校等の多様な主体との連携により、市内全域にて、協働による花苗育成を展開します。

(イ) 2期開催への対応

- ・かわさきフェアは、秋と春の2期開催となることから、それぞれの時期ごとに植物を調達します。
- ・秋は夏から秋にかけて開花する植物、春は秋から冬に開花する植物や、早春から開花する植物を調達します。

(ウ) 安定的かつ計画的な植物調達

- ・短期間に多品種・多品目の植物を大量に使用するため、市内生産団体等から構成される植物調達のための協議会を組織し、市内外から各会場計画に合致した品種・規格・品質の植物を安定的かつ計画的に調達します。

イ 植物の植え付け

(ア) 市民協働による植え付け

- ・植物ボランティア等が花苗の植え付け等を行い、会場づくりに積極的に参加できるようにします。

(イ) 専門性・安全性の確保

- ・専門性、安全性の確保が必要となる部分においては、植物調達協議会による植え付けを実施します。

ウ 植物の管理

(ア) 市民協働による植物の管理

- ・かわさきフェア会場の植え付けや植物管理（植替え・補植・灌水・草刈り等）の実施に当たっては、開催前から植物管理のボランティアを広く募集すると共に、市内で緑化活動を進めている様々な団体との協働により実施します。

(イ) 点検・補植

- ・病虫害の発生など不具合が発生した場合は、その情報を速やかに実行委員会で集約し、適切に対応を図ります。
- ・季節に合わせて計画的な植替え等の維持管理を行います。

(ウ) 植物の状況調査

- ・植物管理の際に、会場内の植物の開花状況を調査し、情報を発信します。

(エ) 植物の再利用

- ・使用した植物について、公園等への移植、希望者への配布、堆肥化のモデル実施等の再利用に取り組みます。

(1) 基本的な考え方

- かわさきフェアの節目に開催し、ハレの日への期待感を高め、かわさきフェアの意義や理念を伝えます。
- 市制100周年の象徴的事業として、これまで培ってきた川崎の魅力や強みを発信します。
- 市民、団体、企業等と連携し、市民総参加で、フェアを盛り上げます。
- 川崎の市民協働による活動の成果を発信するとともに、既存の催事や地域の取組と連携した市民発信型のイベント等を展開します。

(2) 展開イメージ

- 川崎の多様性あふれる魅力や強みを市内、全国に発信
- 市民、企業等が主体となったこれまでの取組の成果を発信するコンクール、シンポジウムなどの開催
- かわさきフェア開催前から、市民、企業、団体等と連携した取組による普及啓発、機運醸成
- 他自治体等の参画による自治体間のネットワーク形成・交流に向けた取組 など



(例) 開会式 (R3北海道フェア)



(例) 川崎国際環境技術展



(例) わがまち花と緑のコンクール

8 行催事

(3) 行催事区分

区分		内容	開催場所
ア 主催 行催事	プレイベント	かわさきフェア開催に向けた機運醸成、市民、団体、企業等の参加意識向上のためのイベント	川崎市内
	公式 行事	オープニングセレモニー	富士見公園 など
		総合開会式	カルッツかわさき
		総合閉会式	カルッツかわさき
		秋・春期セレモニー	富士見公園 など
		全国都市緑化祭	カルッツかわさき 富士見公園 など
	シンポジウム・フォーラム		川崎らしい都市の中のみどりの価値を発信し、みどりのまちづくりに向けたみどりのあり方などを考えるシンポジウム など
	コンテスト ※「6 出展展示」にて記載		企業、団体等の出展作品の出来栄や技術などを競う催し（庭園出展コンテスト、ハンギングバスケットコンテスト など）
	屋内外イベント		より多くの人々がみどりに触れ、楽しめる機会となる各種イベント（イベント、ワークショップ、企画展示、講習会）など
イ その他	連携イベント など		・市民、団体、企業、行政等と実行委員会が連携し、フェアを盛り上げる既存又は新規イベント ・市民、団体、企業、行政等が主催し、実行委員会がPR等の面で応援して開催するイベント など

ア 主催行催事

(ア) プレイベント（日程：令和5年11月11日（土）～25日（土）予定）

かわさきフェアの機運醸成や市民総参加に向けた参加意識の向上を図るため、フェアのハレの日を想起させる展示やトークイベントを実施し、期待感を高めるとともに、みどりのまちづくりに向けて、みどりが身近にあるライフスタイルの提案などを行うプレイベントを開催します。

・ プログラム：

- 市内の生産者や花卉農家などと、川崎の花や緑、農の魅力やみどりを取り入れた暮らしなどをテーマにトークイベントを実施（11月11日（土）、12日（日））
- 川崎のみどりの歴史や各区の魅力の展示（11月11日（土）～25日（土））

・ 会場：川崎市役所本庁舎



川崎市役所本庁舎アトリウム



ローズフェアの様子
@横浜市役所アトリウム

(イ) 公式行事

a オープニングセレモニー（日程：令和6年10月19日（土））

かわさきフェアの始まりを告げるとともに、ハレの日の期待感を高めるため、川崎の魅力や文化を発信するアトラクションやテープカット等を実施します。

- ・ 参加者：地元関係者、イベント関係者 など
- ・ 会場：富士見公園 など

<プログラムイメージ>

- (1) オープニングアトラクション：地元団体によるパフォーマンスで幕開け
- (2) 主催者挨拶
- (3) 関係者・来賓ご挨拶
- (4) テープカット（フォトセッション）



テープカットセレモニーの様子
(R3北海道フェア)



アトラクションの様子
(R2熊本フェア)

b 総合開会式（日程：令和6年10月19日（土））

市民総参加でつくりあげ、盛り上げるフェアのハレの日の開会を記念し、実行委員会委員、庭園出展者、協力団体、行政関係者（国、県、市）等を招待して式典を行います。

- ・ プログラム：オープニングアトラクション、開会宣言、主催者挨拶、来賓紹介、来賓祝辞、表彰式、閉会挨拶 など
- ・ 参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、関係機関（国、県、市） など
- ・ 会場：カルッツかわさき

c 総合閉会式（日程：令和7年4月13日（日））

市民総参加でつくりあげ、盛り上げたフェアのハレの日を振り返り、市民、団体、企業等と一緒にフィナーレを飾るとともに、フェア以降のみどりのまちづくりに向けた節目とする。また、次期フェア開催地への引継ぎを行います。

- ・ プログラム：オープニングアトラクション、主催者挨拶、来賓紹介、来賓祝辞、庭園出展コンテスト表彰式、フェア旗引継ぎ式、次期開催都市挨拶、閉会宣言 など
- ・ 参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、関係機関（国、県、市） など
- ・ 会場：カルッツかわさき



開会式の様子
(R3北海道フェア)



開会式アトラクションの様子
(R3北海道フェア)



閉会式アトラクションの様子
(R2熊本フェア)



引継ぎ式の様子
(R3北海道フェア)

d 秋・春期セレモニー

○秋期クロージングセレモニー（日程：令和6年11月17日（日）予定）

かわさきフェアの秋開催を振り返り、締めくくるとともに、春開催へつながる節目として、川崎の魅力や文化を発信するアトラクションや春開催に向けた演出等を実施し、秋から春へと気運をつなぎます。

- ・プログラム：地元関係者等によるアトラクション、主催者挨拶、春開催に向けた演出など
- ・参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、イベント関係者 など
- ・会場：富士見公園 など

○春期オープニングセレモニー（日程：令和7年3月22日（土）予定）

各コア会場においてアトラクション等を通じ、かわさきフェア秋開催の終了から冬を超え、春の訪れを感じつつ、春開催の期待感を高めます。

- ・プログラム：アトラクション、主催者挨拶、テープカット、秋から春へのつながりの演出など
- ・参加者：実行委員会参画団体、地元関係者、イベント関係者 など
- ・会場：富士見公園 など

e 全国都市緑化祭（日程：秋開催中のうちの1日開催予定）

全国都市緑化フェアの中心行事として、都市緑化に対する国民の理解と協力を得ることにより、都市緑化の推進を図り、もって潤いのあるまちづくりに寄与することを目的に開催します。

- ・プログラム：都市緑化宣言、コンテスト表彰、植樹祭 など
- ・会場：カルッツかわさき、富士見公園 など

※別途、国、県、都市緑化機構、市で構成する実行委員会を設置

＜プログラムイメージ＞

- (1) 主催者ご挨拶
- (2) アトラクション：地元団体によるパフォーマンス
- (3) 春へ繋がる演出

春フェアにバトンを渡すような演出で秋フェアを締めくく

例) ・市民と共に花の苗を植える → 春フェアの時期に咲く
・地元小学生がみどりへの想いを寄せ書きをした記念旗を主催者へ贈呈 → 春フェアの会場にも掲出する 等



＜プログラムイメージ＞

- (1) オープニングアトラクション
：地元団体によるパフォーマンスで幕開け
- (2) 主催者挨拶
- (3) 関係者・来賓ご挨拶
- (4) 秋からの継承演出
- (5) テープカット（フォトセッション）

秋フェアのクローズセレモニーから繋がる演出（継承）

例) 秋に植えた花のお披露目、記念旗を掲げる演出などを通して、継続した緑化への取り組みを印象付ける

(ウ) シンポジウム・フォーラム（日程：フェア期間内）

川崎らしい都市のみどりの価値を発信する機会として、市民協働による活動の成果や市民のライフスタイルに溶け込むみどりのあり方について、川崎にゆかりのある方や有識者、ゲスト等によるシンポジウムを開催します。

<プログラムイメージ>

- (1) 主催者挨拶
- (2) 基調講演
- (3) トークセッション、ワークショップ等のコンテンツ

<テーマイメージ>

・市民に対してわかりやすく、身近な話題として緑化の重要性を伝える

例) みどりを生かしたまちづくりに取り組む有識者、庭園デザイナー、ランドスケープデザイナー など

・生活の中で緑化への発見・理解に繋がる企画

例) ガーデニングワークショップ、国土交通省や川崎市の公園・緑化担当者による地域の取り組み紹介 など

・中長期的な緑化への取り組み、より理解を深めるための知識を得る

例) 緑化を通して環境問題に取り組む有識者、関連分野の研究の紹介 など

・フェア後の具体的な継続アクションに繋がる企画

例) 森づくり・緑化の活動を行う市民団体の代表によるトークショー、SDGsにまつわるワークショップ など

(エ) 屋内外イベント

○屋内イベント

- ・ 屋内における緑化の魅力を伝え、来場者の緑化に対する意識や関心を高めます。
- ・ 川崎市の市民活動の紹介や作品の展示を行います。

<富士見エリアの例>

- ・ 川崎のみどりの歴史を振り返る展示や最先端の室内緑化（富士見公園パークセンター）
- ・ 本庁舎アトリウムを活用した展示（川崎市役所本庁舎）

○屋外イベント

- ・ みどりの新たな活用や、みどりを活かしたライフスタイル提案など、より多く人がみどりに触れ、楽しめるようなイベント等を実施します。
- ・ 川崎市の市民活動の紹介や作品の展示を行います。

<富士見エリアの例>

- ・ 夜の公園等を活用した健全な夜遊び

<等々力エリアの例>

- ・ 等々力緑地再編整備事業者と連携したイベント（等々力緑地催し物広場） など

○その他

- ・ 企業等の持つ様々なアイデアや先進的な取組等を活用し、より多くの市民が都市の中のみどりの価値を実感できるイベント等を企画します。

イ その他（連携イベントなど）

- ・市民、団体、企業、行政等と実行委員会が連携し、フェアを盛り上げる既存又は新規イベント



（例）花と緑の市民フェア など



（例）Vege & Art Fes など

- ・市民、団体、企業、行政等が主催する各種イベントやシンポジウム・フォーラム 等



（例）多摩・三浦丘陵の市民と緑をつなぐシンポジウム



（例）わがまち花と緑のコンクール

- （例）全国造園デザインコンクール（一般社団法人日本造園建設業協会）
造園技術フォーラム（一般社団法人日本造園建設業協会） など

- ・身近な場所を彩る誰もが気軽に参加できる花植えイベントなど



（例）近くの公園での花植え体験 など



（例）駅前での花植えイベント など

9 飲食・物販

(1) 基本的な考え方

- 飲食店や生産者等と連携・協力して、地域の農産物や特産品等を使用した川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。
- SDGsの要素を取り込んだ衛生面や環境面に配慮したサービスを提供します。
- みどりを生活に取り入れる仕掛けや仕組みを取り入れます。
- 市民が楽しく参加できる様々なメニューを用意します。



「かわさきそだち」などを活用したかわさきフェアならではの飲食メニューの提供



「川崎市市制100周年」応援デザイン
「ニューたんめん」カップめんの全国発売
(写真提供：サンヨー食品株式会社)



市内名産品

(2) 展開イメージ

(飲食)

- ・ 使い捨てプラスチック等の使用を可能な限り抑制するなど、容器のリユース・リサイクル等の環境に配慮した取組の推進
- ・ 川崎産の農産物等を使用した料理や川崎ならではの食文化の発信につながるご当地グルメ等の提供
- ・ エリア内の商店街や飲食店等をめぐりながら、オリジナルメニューを堪能するなど、川崎の食の魅力を体感できるプログラムの提供
- ・ パンフレット及び公式HPにエリア内の店舗情報を記載し誘導 など

(物販)

- ・ 生産者や飲食店、商店街や民間事業者等と連携した川崎の特産品の提供 など

◆想定される出店者

(募集開始 令和6年4月以降)

- 川崎市内営業飲食店
- JAセレサ川崎
- 川崎ものづくりブランド認定品
- 園芸用品や自然素材を使用した工芸品などを扱う民間事業者
- 環境面で評価を得ている民間事業者
- 市内福祉団体 など



会場周辺の既存店舗と連携した飲食等の提供



生産者等と連携した「かわさきそだち」や県内産野菜の販売

(1) 基本的な考え方

- 市民、地域の活動団体、NPO、学校、企業等の多様な主体と連携・協働した会場運営の手法を導入し、環境や安全面に配慮するとともに、誰もが快適に参加できるような適切な会場運営を行います。
- 市民等が広く参加できるボランティア活動メニューを用意し、会場運営の様々な場面に関わってもらう機会を創出します。
- 様々な技術やノウハウを有する企業や指定管理者等と連携し効率的な会場運営、環境面に配慮した取組を推進します。
- 環境先進都市にふさわしい、環境負荷低減を意識した会場運営・管理を行います。

(2) 具体的な取組

ア 3会場に共通する事項

<会場運営>

- ・ 会場の案内所の開設時間は9：30～17：00とします。なお、夜間イベントを行う際は別途対応します。
- ・ 案内所等を設置し、車イスやベビーカーの貸出し、授乳室・救護室、情報発信などの来場者サービスを展開します。
- ・ 会場内を巡回し、来場者への案内及び会場内の情報収集を行います。
- ・ 障がい者や高齢者、外国人等の様々な来場者が快適に各会場で過ごせるような場内環境を提供します。
- ・ タブレットや筆談ボードを活用し、手話・外国語通訳を必要とする来場者への対応を行います。
- ・ フェア全体の様々な情報を一元化し、「来場者向けの情報」や「関係者向けの情報」に整理をしてそれぞれに正確な情報提供を行うために、情報センターを富士見公園に配置します
- ・ 関係法令及び各施設の管理方針等に則り、適切に会場運営を図ります。
- ・ 最寄駅から会場までの回遊性を高めるために、駅前や歩道等にサインの設置を行います。

<会場管理>

- ・会場内の巡回、警備、救護体制、清掃、危機管理体制を構築し**総合的な会場管理**を行います。
- ・市民等が参加するボランティアの活動内容を整理し、来場者に親しみやすく温かみがあるサービスを提供します。
- ・会場内に案内所を配置し、会場案内等の情報提供や会場案内マップの配布等の来場者へのサービスを提供します。
- ・案内所には運営スタッフとともに、**会場サービスボランティアを配置**します。また、貸出所を併設し、貸出サービスを展開します。
- ・各会場にボランティア活動の拠点となるボランティアセンターを設置し、ボランティアの全体管理などを行います。
- ・施設の不具合を発見した場合は、安全措置を講ずるとともに、速やかに管理運営本部に連絡します。
- ・かわさきフェア展示物周辺の清掃、会場内のトイレ清掃（消耗品補充含む）、休憩所・ベンチ等の清掃を行います。
- ・救護室にAEDを設置し、スタッフは事前にAEDの操作研修を行います。
- ・SDGsの取組として、会場内にエコステーションを設置するなど、**資源のリサイクルを推進**します。

イ 3会場で個別に展開する取組

(ア) 富士見公園

<会場運営>

- ・**3会場を統括する総括運営本部を教育文化会館に設置**します。
- ・パークセンターに、総合案内所を設置します。

<会場管理>

- ・土日祝日等の多客日については、JR川崎駅等にスタッフを配置し、情報提供を行います。
- ・カルッツかわさき内の救護室及び授乳室を活用します。



富士見公園 施設配置図

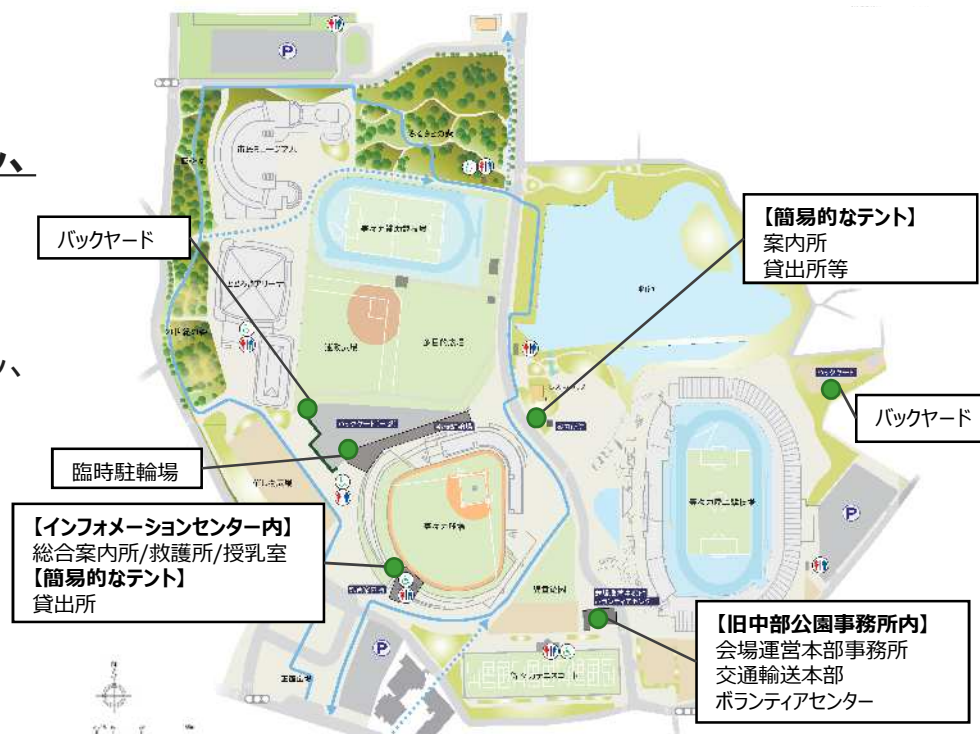
(イ) 等々力緑地

<会場運営>

- ・ 等々力球場のインフォメーションセンターに、総合案内所を設置し、旧中部公園事務所に現地運営本部を設置します。

<会場管理>

- ・ 土日祝日等の多客日については、武蔵小杉駅等にスタッフを配置し、情報提供を行います。
- ・ 等々力球場のインフォメーションセンター内に救護室及び授乳室を設置します。



等々力緑地 施設配置図

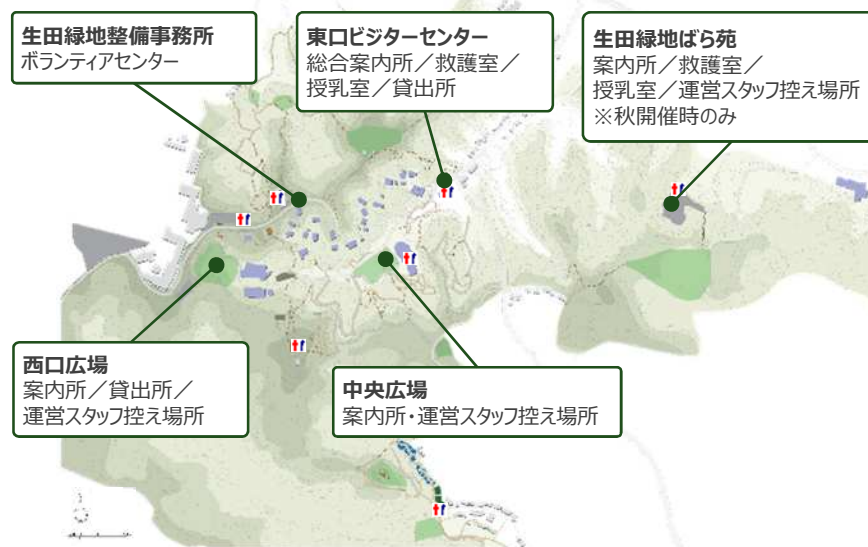
(ウ) 生田緑地

<会場運営>

- ・ 東口ビジターセンターに、総合案内所及び現地運営本部を設置します。
- ・ 生田緑地ばら苑の秋の開苑期間を、かわさきフェア期間に合わせます。

<会場管理>

- ・ 土日祝日等の多客日については、向ヶ丘遊園駅等にスタッフを配置し、情報提供を行います。
- ・ 総合案内所（東口ビジターセンター）に救護室及び授乳室を設置します。



生田緑地 施設配置図

(1) 基本的な考え方

○公共交通機関の利用を前提とし、来場者の誰もが、安全、安心、快適に最寄り駅からコア会場へ移動できるよう、みどりを感じながら、歩いて楽しめるおすすめルートを案内します。

○富士見公園、等々力緑地、生田緑地に分かれるコア会場は、各会場を1日で移動するための個別の輸送手段は設定せず、それぞれの地域資源（エリア）を楽しんでもらえるよう案内します。

また、コア会場間をつなぎ楽しみながら移動できるコンテンツを企画します。

○地域特性や交通事情、環境への配慮を踏まえつつ、既存の公共交通機関に加え、公共交通を補完する交通サービスや会場内での移動をサポートする交通サービスを展開します。

(2) 具体的な取組

ア 3会場に共通する事項

〈最寄駅からの来場〉

- ・花やみどりを効果的に活用し、視線誘導を図ることにより、会場への誘導を行います。
- ・各会場への移動が円滑にできるよう誘導サインを設置します。
- ・バスやタクシー、シェアサイクル乗り場等のわかりやすい案内を行います。
- ・身障者等の駐車場は公園内の既存駐車場を活用します。（原則、公園内の既存駐車場は開場）

〈多客日の対応〉

- ・最寄り駅等において、必要に応じスタッフや案内サポートボランティア、警備員を配置します。
- ・自転車来場について、臨時駐輪場所の確保などの対策を講じます。
- ・違法駐車対策やホームページ等における公共交通利用の呼びかけにより、一般交通への影響の軽減を図ります。



案内サポートボランティアによる案内



警備員の配置

イ 3会場で個別に展開する取組

(ア) 富士見公園

- ・路線バスの運行本数も多いことなどから、既存の路線バスを適切に案内します。

(イ) 等々力緑地

- ・会期中の土日祝日のイベントの実施内容に応じて、駅から会場までスムーズに移動できるよう、既存バス路線の増便等の対応を予定します。

(ウ) 生田緑地

〈公共交通機関による来場〉

- ・会期中の土日祝日のイベントの実施内容に応じて、駅から会場までスムーズに移動できるよう、既存バス路線の増便等の対応を予定します。

〈会場内での移動をサポートする交通サービスの展開〉

- ・駅からのアクセスや会場内での移動をサポートするため、生田緑地ばら苑と生田緑地東口をつなぐマイクロバスや、向ヶ丘遊園駅から生田緑地東口、西口をつなぐ、環境に配慮したグリーンスローモビリティ等による運行を行います。
- ・会場内、特に生田緑地ばら苑との行き来がしやすくなるような誘導や案内の工夫を図ります。



富士見公園 来場ルート



等々力緑地 来場ルート



生田緑地 来場ルート

- 方法 実行委員会参画団体へメールで確認するとともに、広く意見を募集するため、川崎市WEBサイト及びかわさきフェア公式WEBサイトで意見を募集
- 期間 **令和5年6月9日(金)～7月10日(月)**
- 結果 **12団体・個人、28件**
- 主な意見

○御意見を踏まえ、計画に反映したもの

- ・ 生田緑地の正しい理解に基づき、コンセプトや植物調達の記載を修正して欲しい。

○御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見の趣旨を踏まえ、取組を推進するもの

- ・ 自社の資源を活用し、100周年事業やかわさきフェアを盛り上げていきたい。
- ・ コア会場付近に複数の事業所があることから、プランターを設置したり、地域の公園施設への道案内として協力が可能。
- ・ ボランティアメンバーの募集やイベント等への参加の促進、自宅のみどりのSNS投稿等を、社内展開による協力が可能。
- ・ 植物を使って何かを作る・食べるという経験が減っているので、来場者が能動的に関わるシーンが多くあると良い。

○今後の取組を進めていく上で参考とするもの

- ・ 多くの人の来場が見込まれることから、喫煙場所の設置を検討して欲しい。
- ・ 「みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること」という意義の一つの達成のため、市全体にもっと植物を植えるべき。

○案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明・確認するもの

- ・ 市域外や全国に発信していくためには、こういった具体的な取組が必要か。
- ・ 市民ボランティア等の協働はよいが、会場費や材料費、人件費等の持ち出しにならないように予算組をお願いする。
- ・ フェアも差し迫っていると思われるが、間に合うのか心配だ。